

卓越大学院プログラム
中間評価
アンケート調査結果

結果報告

令和6年3月

独立行政法人日本学術振興会
卓越大学院プログラム委員会事務局

実施概要

アンケート実施期間：令和5年4月17日（月）～5月19日（金）*

* 5月12日（金）締切を5月19日（金）まで延長して実施

アンケート対象学生：

1. 抽出条件

卓越大学院プログラムに選抜された学生のうち、令和5年度までにプログラムに入学（編入も含む）した学生で、且つ現在（アンケート実施時点）も在籍している全学生

2. 対象者数

202名

3. 回答者数

182名（回答率90.1%）

アンケート対象プログラム担当者：

1. 条件

令和5年4月1日現在の全プログラム担当者（ただし、同日付けで新たに担当者となった者を除く）。

2. 対象者数

400名

3. 回答者数

327名（回答率81.8%）

アンケートの回答依頼スケジュール（参考）：下記の表のとおり。

	担当者	学生
回答の依頼	4月17日（月）	4月17日（月）
第1回リマインド	5月8日（月）	5月8日（月）
第2回リマインド	5月12日（金）	5月12日（金）

・上記のほか、不達との連絡が大学からあった際には個別に配信。

目次

目次	2
第1部 学生アンケート調査結果	5
1. プログラムへの参加動機 (問7-1)	5
2. プログラムがなかった場合の最終学位 (問7-2)	6
3. プログラムに対する感想 (問8)	7
4. プログラムで受けた指導 (問10)	8
5. 環境の整備と有効性 (問11A)	10
6. 経験の有無と有効性 (問11B)	11
7. 身に付いた能力 (問12)	13
8. プログラムへの評価 (問13)	14
9. プログラムの効果・負担 (問14)	15
10. 修了後の進路 (問15)	15
11. 学生の属性 (問2, 3, 4, 5)	17
12. プログラム情報の獲得方法 (問19)	20
第2部 プログラム担当者アンケート調査結果	21
1. プログラムへの関与 (問3)	21
2. 指導の内容 (問5)	22
3. 実施されたプログラムと整備された環境 (問6)	24
4. プログラムの有効性 (問7)	26
5. 運営・管理 (問8)	26
6. プログラムに対する印象 (問9)	27
7. 指導・支援の改善のための評価等の実施 (問10)	28
8. 学生への効果・負担 (問11)	28
9. 参加教員の属性 (問2, 3, 4)	29
附録A サンプルと回答者数	
附録B 学生アンケート調査と単純集計結果	
附録C プログラム担当者アンケート調査と単純集計結果	

【参考：学生とプログラム担当者の設問の比較】

以下の設問については、学生とプログラム担当者へ同じ質問をしています。参考までに対応する設問の一覧を示します。

学生		プログラム担当者	
問 10	<p>【4. プログラムで受けた指導】</p> <p>このプログラムで、下のような指導を受けましたか。また受けた場合、それは有効ですか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副指導教員など指導教員以外の教員からの指導 ・企業、政府機関など学外者からの指導、助言 ・メンター等による授業外のサポート ・産学共同研究の場への参画 ・主専攻以外の分野の授業等の履修 ・研究室ローテーション ・プロジェクト形式による授業や課題 ・キャリアパス具体化のための情報提供 	問 5	<p>【2. 指導の内容】</p> <p>このプログラムで、先生は下のような指導を行われていますか。また、行っている場合はそれは有効ですか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導学生以外の学生への指導 ・主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等 ・産学共同研究の場への学生の参画 ・研究室ローテーションの受け入れ ・プロジェクト形式による授業や課題 ・メンター等としての授業外のサポート
問 11 A	<p>【5. 環境の整備と有効性】</p> <p>このプログラムで、下のようなことは整備され、経験していますか。またそれは有効に機能していますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奨励金や授業料の補助等大学からの金銭的支援 ・異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 ・外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会 ・学生のみでプロジェクト等を企画・運営する機会 ・QE (Qualifying Examination) などによる審査の機会 ・英語による授業、指導、QE等の機会 		<p>【3. 実施されたプログラムと整備された環境】</p> <p>このプログラムで、下のようなことは実施、あるいは整備されていますか。また1～3を選択した場合、それは有効に機能していますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業、政府機関など学外者からの指導 ・キャリアパス具体化のための情報提供 ・奨励金や授業料免除等大学からの金銭的支援 ・異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 ・外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会 ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満） ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上） ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満） ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上） ・本プログラムの中での留学 ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップおよび留学以外の国外での学外活動
問 11 B	<p>【6. 経験の有無と有効性】</p> <p>このプログラムの枠によって、下のことを経験しましたか、また経験した場合それは有効でしたか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満） ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上） ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満） ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上） ・本プログラムの中での留学（3ヶ月未満） ・本プログラムの中での留学（3ヶ月以上1年未満） ・本プログラムの中での留学（1年以上） ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップおよび留学以外の国外での学外活動 	問 6	

<p>問 12</p>	<p>【7. 身に付いた能力】 このプログラムによって、下のような能力は身についたと思いますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度な専門的知識・研究能力 ・高い国際性 ・専門以外の分野の幅広い知識 ・物事を俯瞰し本質を見抜く力 ・自ら課題を発見し解決に挑む力 ・独創的な能力 ・チームのマネージメント力 ・企画立案、関係者との調整、統率する能力 ・他者と協働する力 	<p>【4. プログラムの有効性】 このプログラムは、学生に以下のような資質を身につけさせるのに、どの程度有効ですか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度な専門的知識・研究能力 ・高い国際性 ・専門以外の分野の幅広い知識 ・物事を俯瞰し本質を見抜く力 ・自ら課題を発見し解決に挑む力 ・独創的な能力 ・チームのマネージメント力 ・企画立案、関係者との調整、統率する能力 ・他者と協働する力
<p>問 13</p>	<p>【8. プログラムへの評価】 以下のような点について、どう考えていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムに参加する教員の間でプログラムについての理解が共有されている ・多くの担当教員の協働によりプログラムが運営されている ・指導教員や研究室スタッフを含め、プログラムに参加していない教員等はプログラムの目的を理解し、あなたがプログラムに参加することに協力的である ・学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す可能性が大きい ・後輩にもこのプログラムを勧めたい 	<p>【6. プログラムに対する印象】 以下の点について、どう考えられていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム担当者間でのプログラムについての理解の共有ができています ・連携先機関と共通理念に基づいた教育が行われている ・既存の研究科等や機関の枠を超え、博士課程前期・後期一貫した体系的な教育課程の編成による高度な研究を通じた組織的な教育が行われている ・プログラムを通じて授与される学位の質保証が適切に行われている ・多くの担当教員の協働によりプログラムが運営されている ・プログラム担当者以外の教員の理解があり、協力的である ・大学の執行部が、プログラムの目的を理解し、協力的である ・優秀な学生が多数入学している ・今後優秀な学生をより多く獲得できる ・優秀な社会人の博士学位の取得促進が行われている ・学生はプログラムの意図を良く理解している ・学生にとって、将来の進路が明確になっている ・学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す見込みがある ・このプログラムによって、大学院制度の改善に大きな示唆が得られている ・このプログラムが補助期間終了後も大学の独自財源により持続的に運営される見通しがある ・これから進学を考えている学生にこのプログラムを勧めたい
<p>問 14</p>	<p>【9. プログラムの効果・負担】 以下のような点について、どう考えていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このプログラムによって自身の研究に新たな示唆・知見が得られた（得られそうである） ・所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が過大な負担にならないように考慮されている ・所属研究室において、自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられると考えている ・修了後の進路に不安がない 	<p>【8. 学生への効果・負担】 以下の点について、どう考えられていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このプログラムによって学生自身の研究に新たな示唆・知見が得られる（得られそうである） ・学生にとって、所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が過大な負担にならないように考慮されている ・プログラムに参画している学生は所属研究室において専門的な研究を進めて、業績を上げられると考えられる ・学生の将来の進路に不安がない

第1部 学生アンケート調査結果

1. プログラムへの参加動機（問7-1）

学生にこのプログラムへの参加動機について、あてはまるもの全て（図1）と、その中で最も直接的な動機に近いもの（図2）について聞いている。

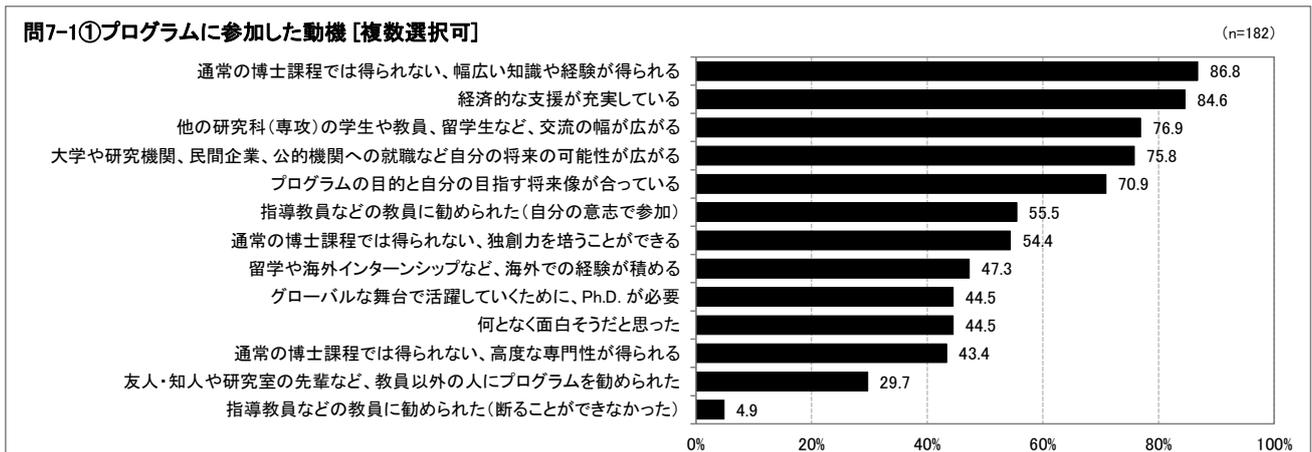


図1 プログラムへの参加動機（複数選択可）(n=182)

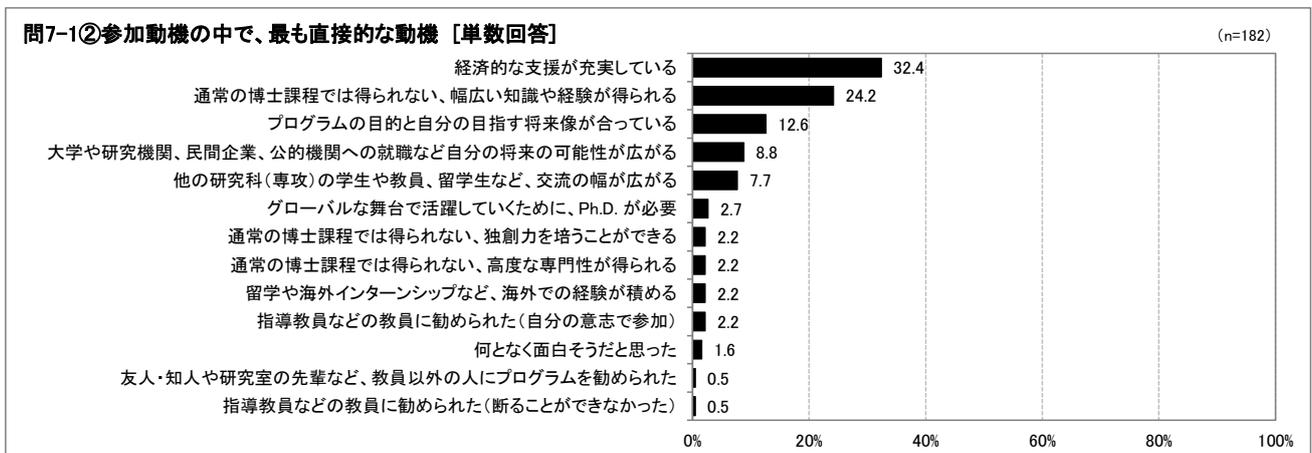


図2 プログラムへの参加動機（単数回答）(n=182)

2. プログラムがなかった場合の最終学位（問7-2）

学生にこのプログラムがなかった場合、どの最終学位を選択していたかについて聞いている。（図3）

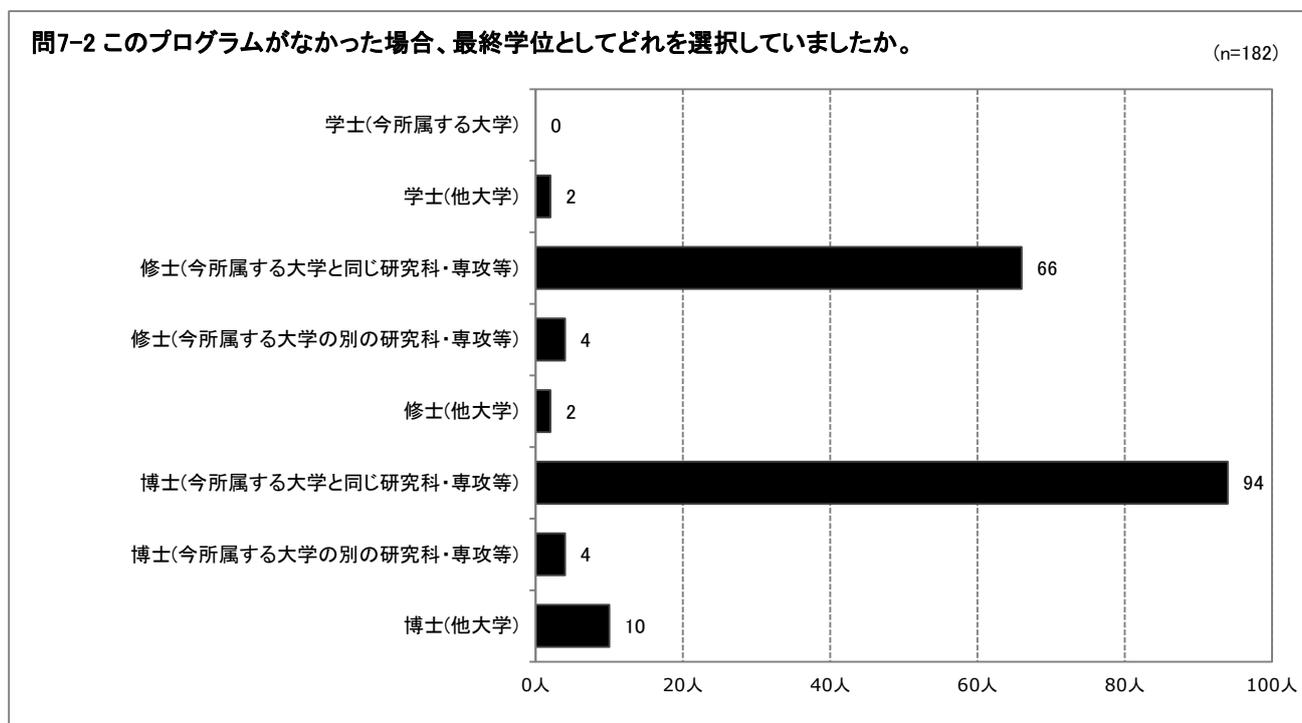


図3 プログラムがなかった場合の最終学位 (n=182)

3. プログラムに対する感想（問8）

学生にこのプログラムをどのように評価するか感想を聞いている。（図4）

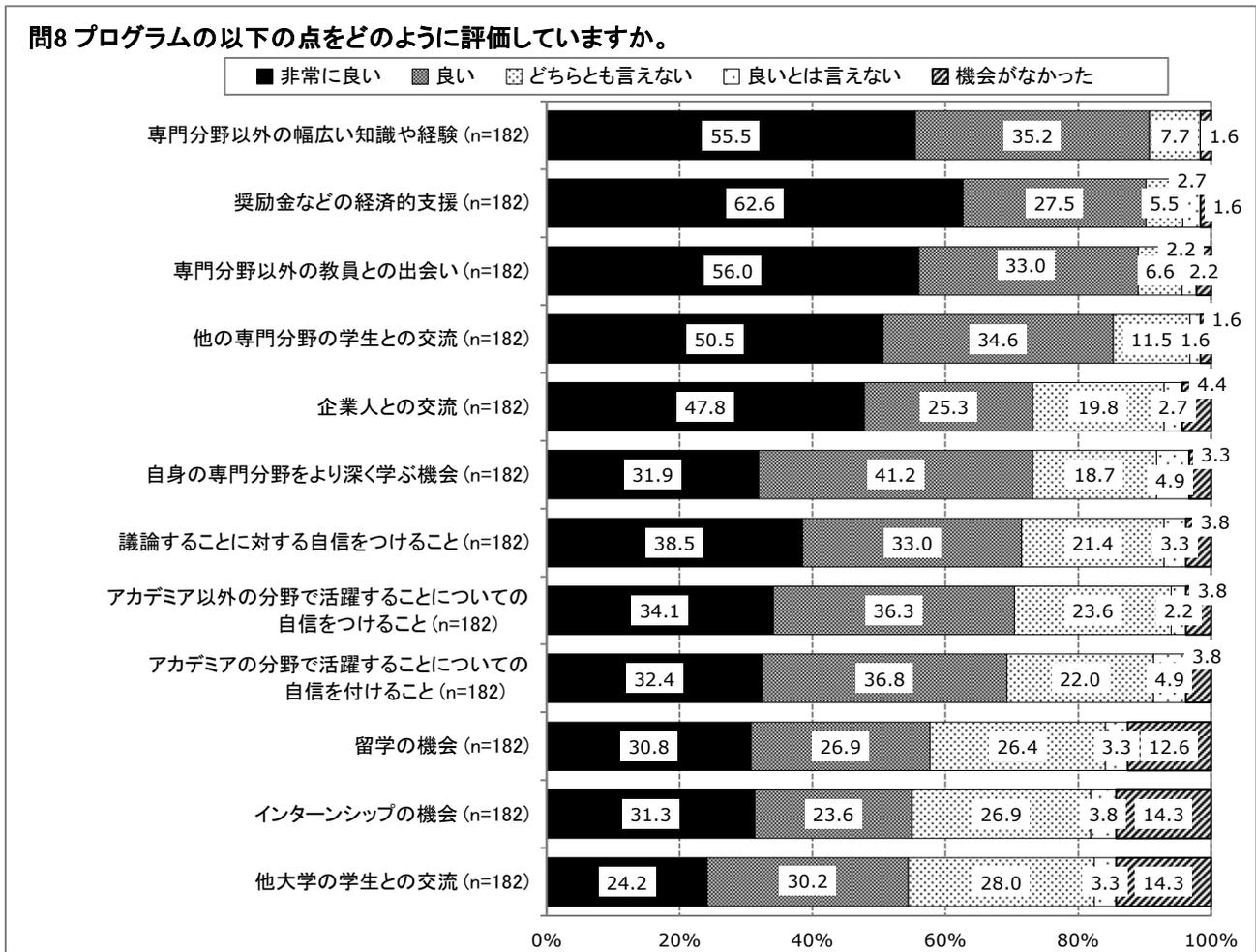


図4 プログラムに対する感想 (n=182)

4. プログラムで受けた指導（問10）

学生にこのプログラムについて、どのような指導をどの程度受けたか（図5）、また受けた指導は、それが有効であったか（図6）、について聞いている。

指導の内容



図5 プログラムで受けた指導（コロナ禍 n=81、制限緩和期 n=182）

受けた指導の有効性

<「毎日」～「半年に1回程度未満」を選択した場合のみ回答>

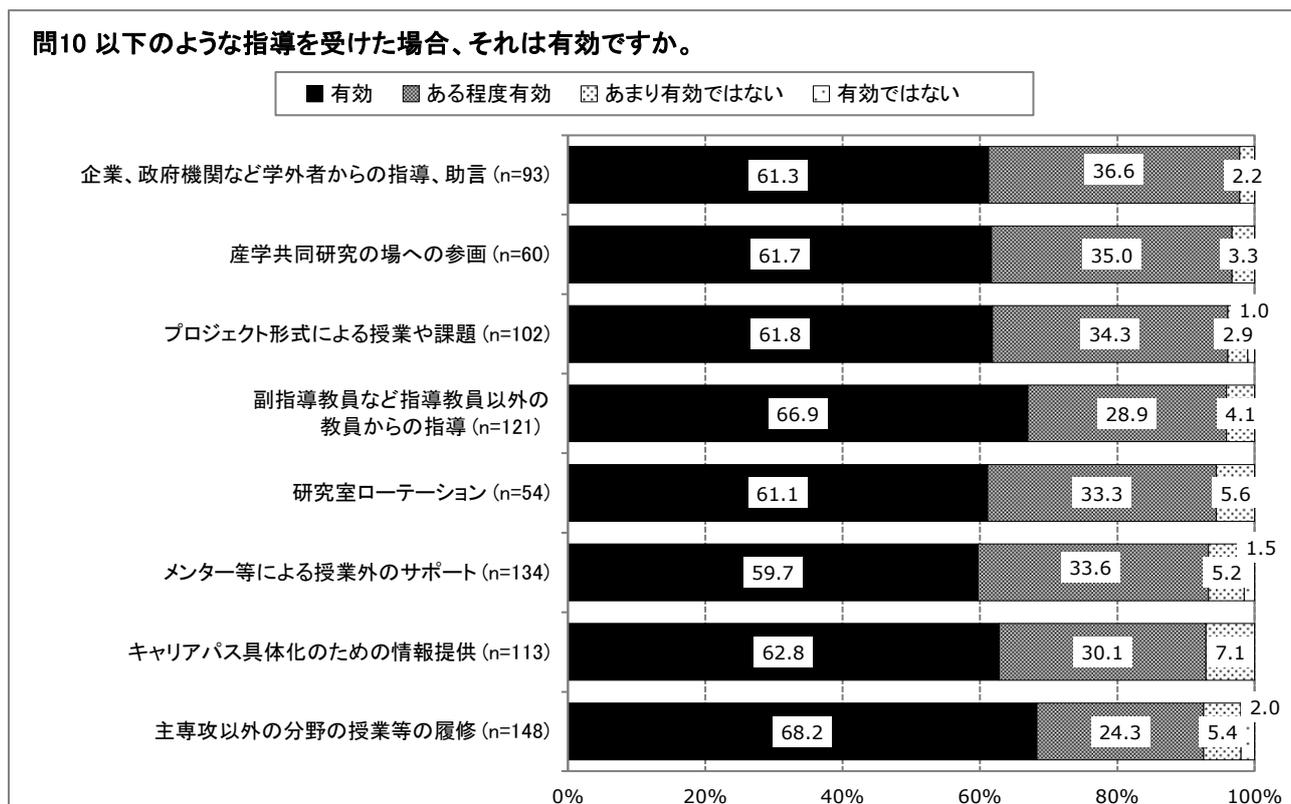


図6 指導を受けた場合の有効性

5. 環境の整備と有効性（問 1 1 A）

学生に研究やプログラムの活動に専念するためにどのような環境が整備され経験しているか（図 7）、それが有効に機能しているか（図 8）、について聞いている。

プログラムで整備された環境

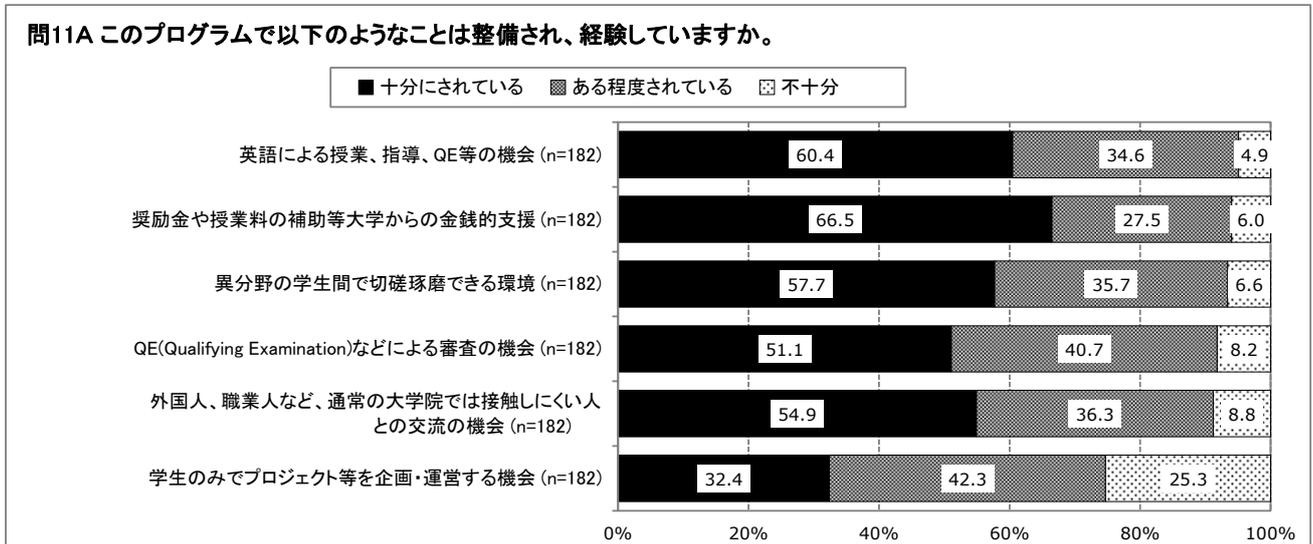


図 7 プログラムで整備された環境 (n=182)

環境の有効性

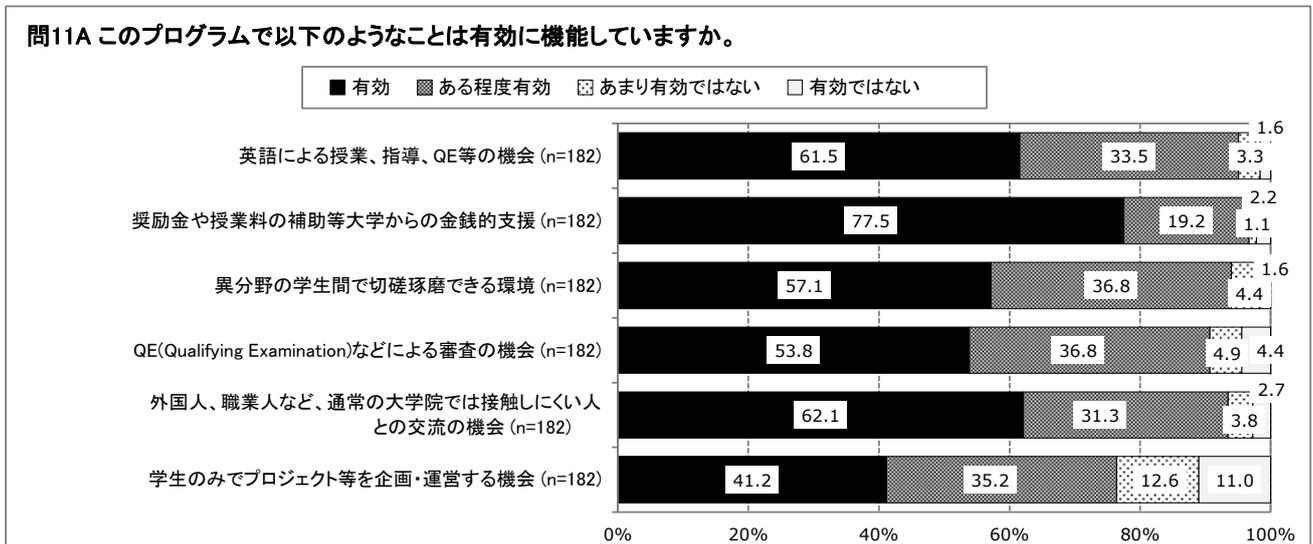


図 8 整備された環境の有効性 (n=182)

6. 経験の有無と有効性（問11B）

プログラムで用意された活動に参加したか（図9）、それが有効に機能しているか（図10）について聞いている。

プログラムでの経験

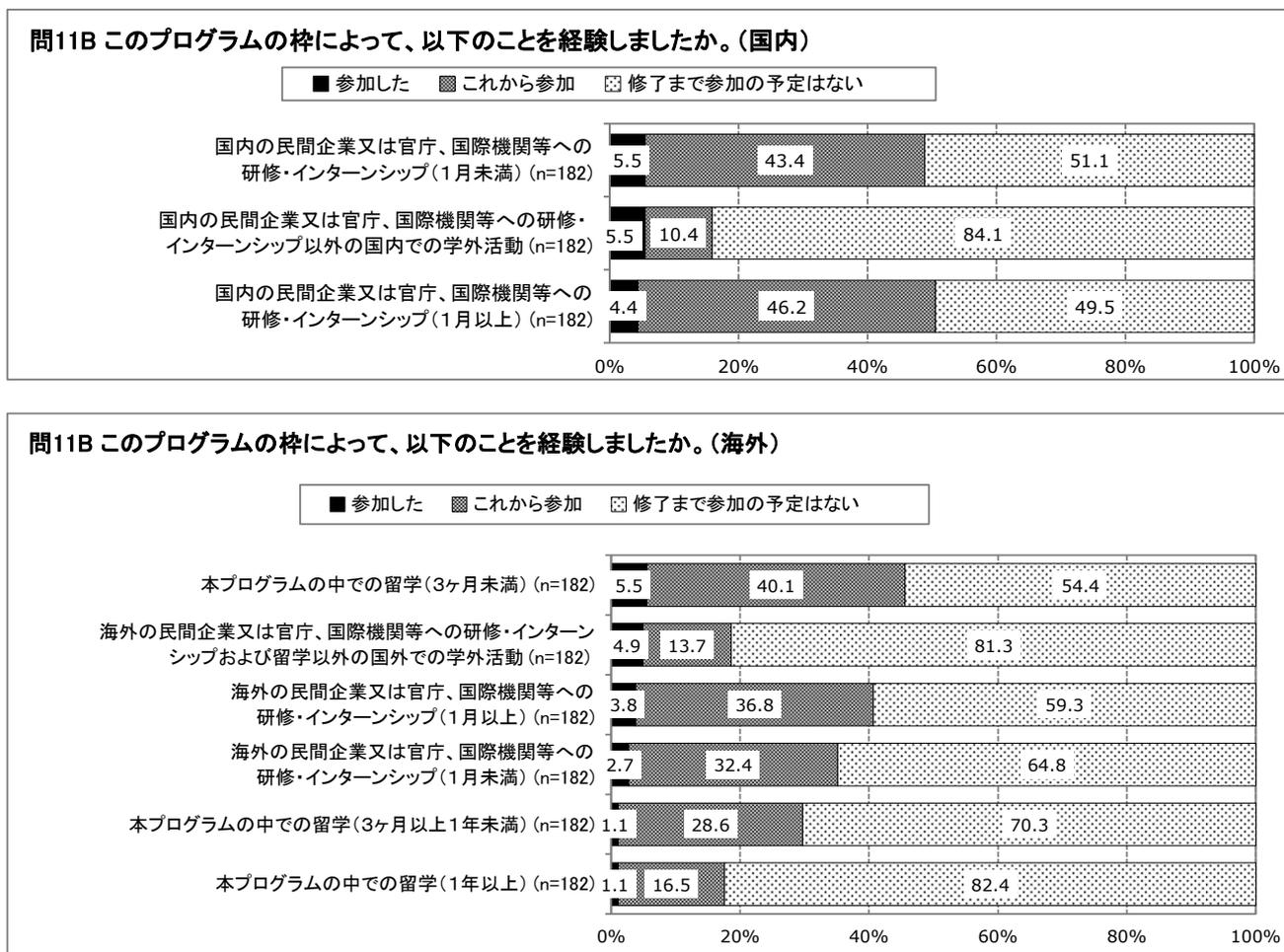


図9 プログラムでの経験 (n=182)

経験の有効性

< 「参加した」 を選択した場合のみ回答 >

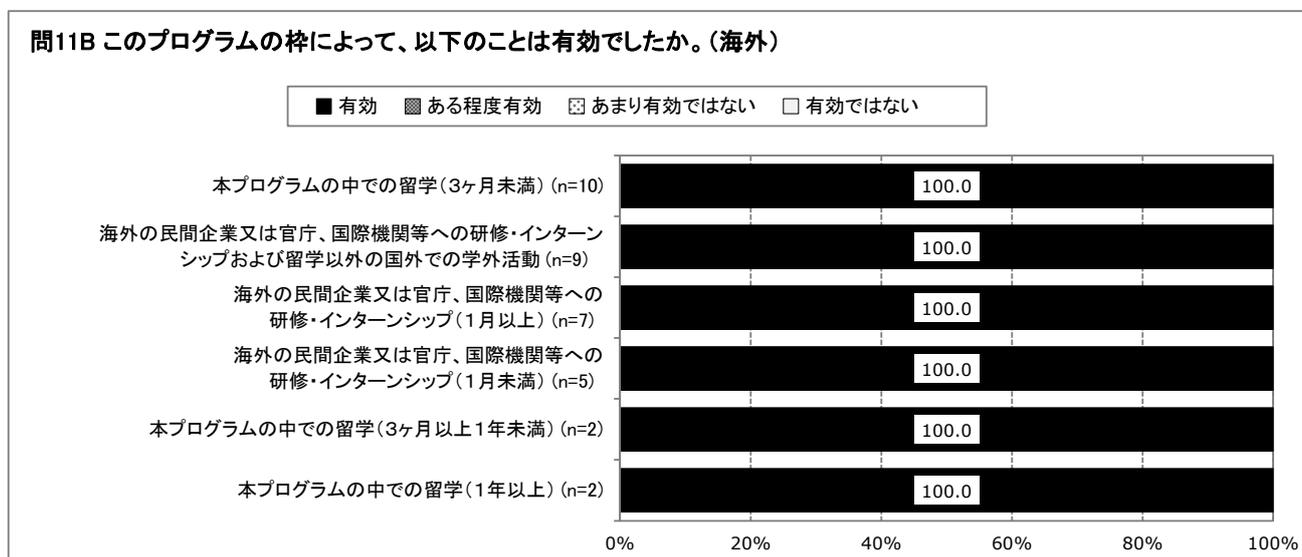
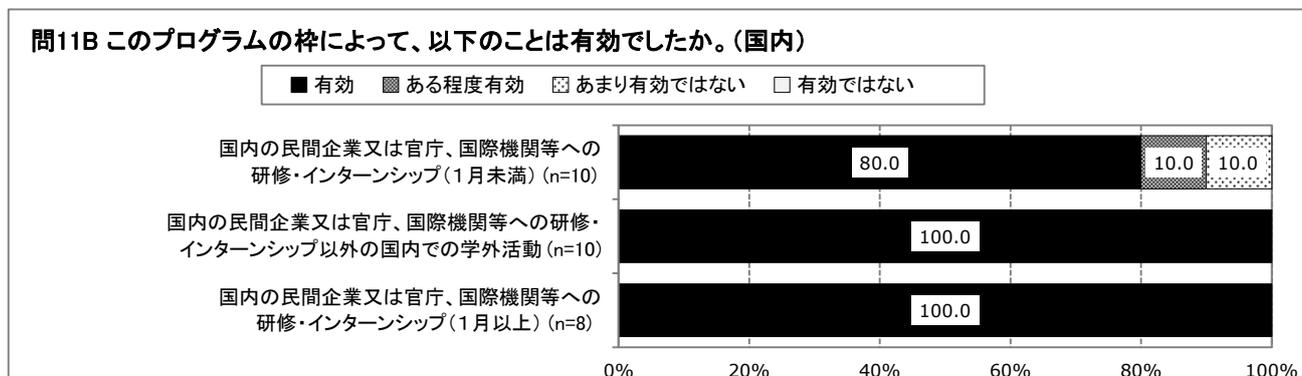


図 10 プログラムでの経験の有効性

7. 身に付いた能力（問12）

学生にプログラムに参画することにより身に付いた能力（図11）を聞いている。

身に付いた能力

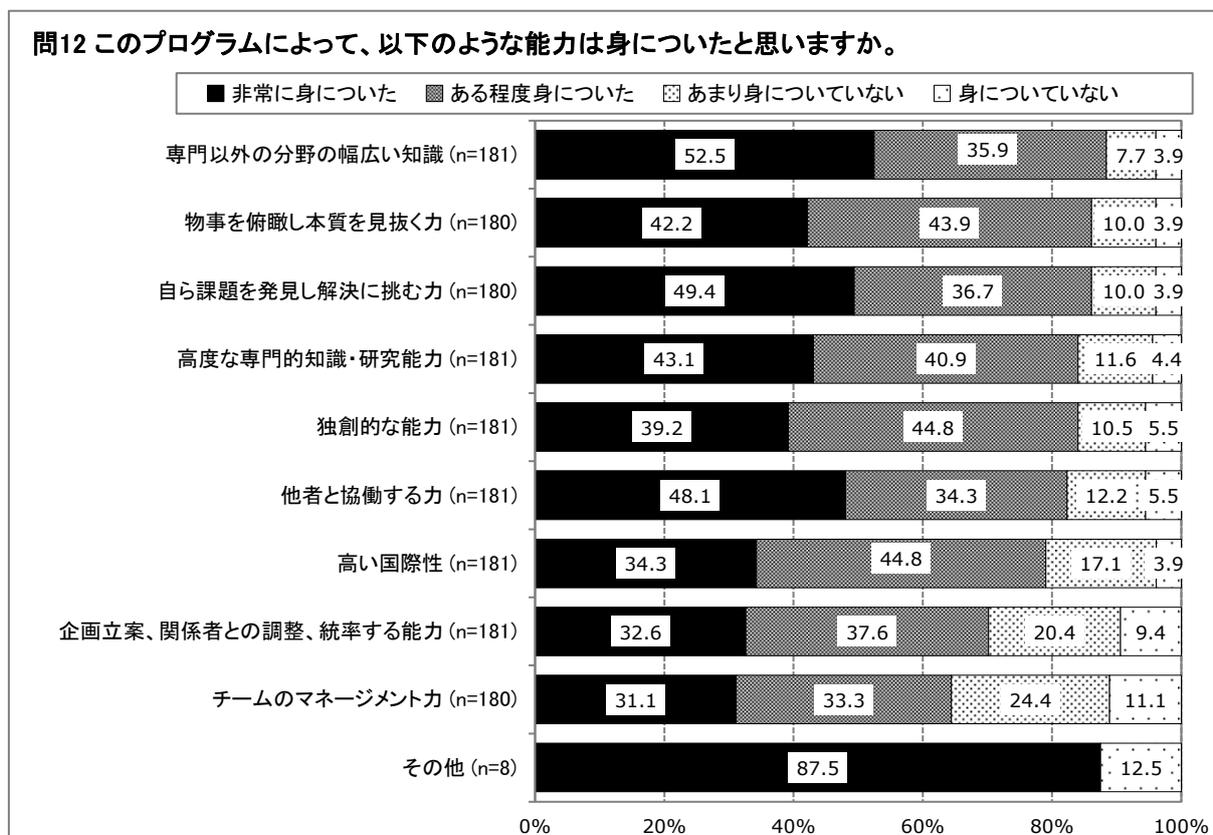


図11 プログラムによって身に付いた能力

8. プログラムへの評価（問13）

学生にプログラムに実際に参加している教員や、プログラムに参加していない周囲の教員等のプログラムへの理解や、プログラムそのものに対する印象を聞いている。（図12）

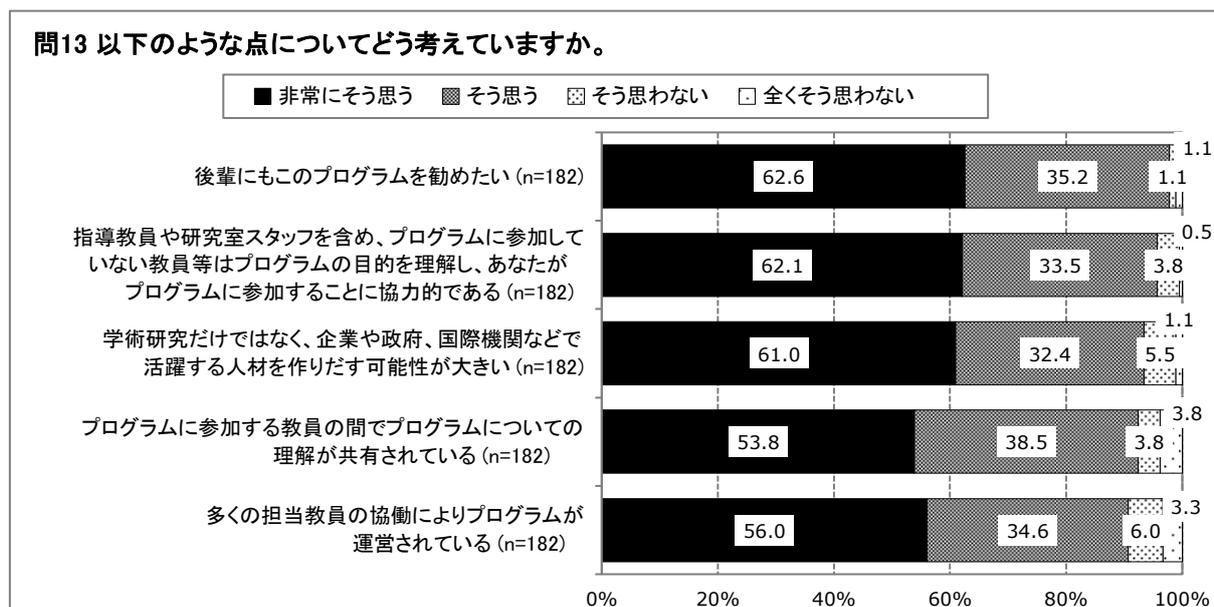


図12 プログラムへの評価 (n=182)

9. プログラムの効果・負担（問14）

学生にプログラム参加による研究面やキャリア面での効果、また負担について聞いている（図13）。

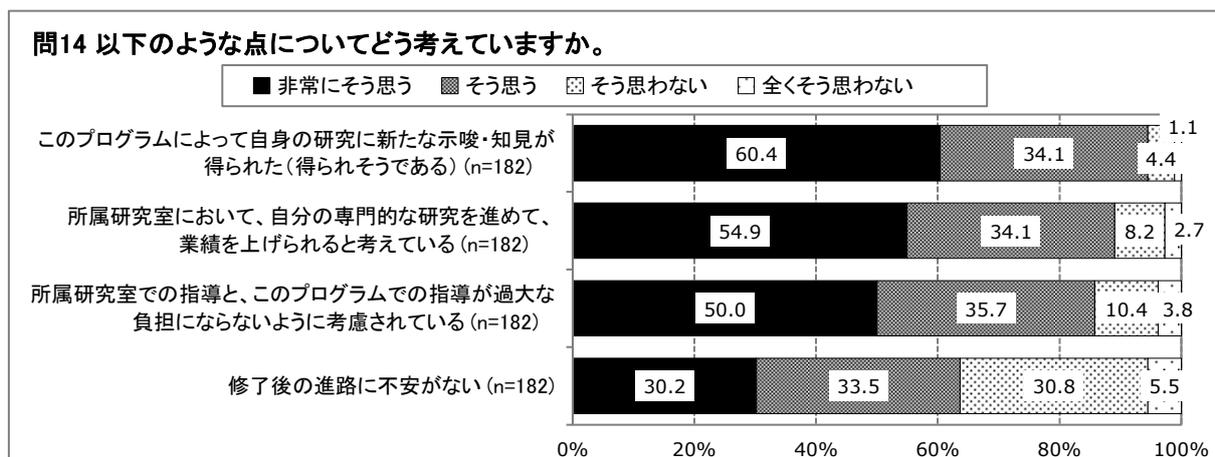


図13 プログラムの効果・負担 (n=182)

10. 修了後の進路（問15）

学生の進路について、入学時、アンケート回答時点（現在）の希望および決定した進路について聞いている（図14～図17）。

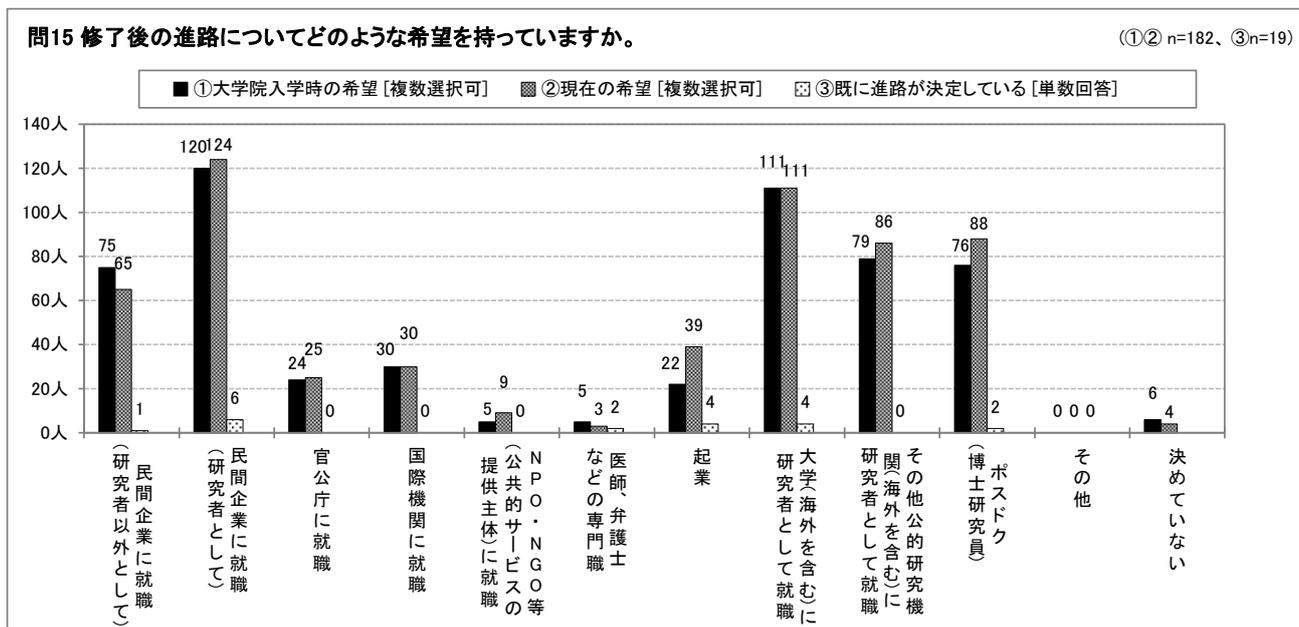


図14 ①大学院入学時、②現在の希望、③進路決定済み比較 (①②n=182、③n=19)

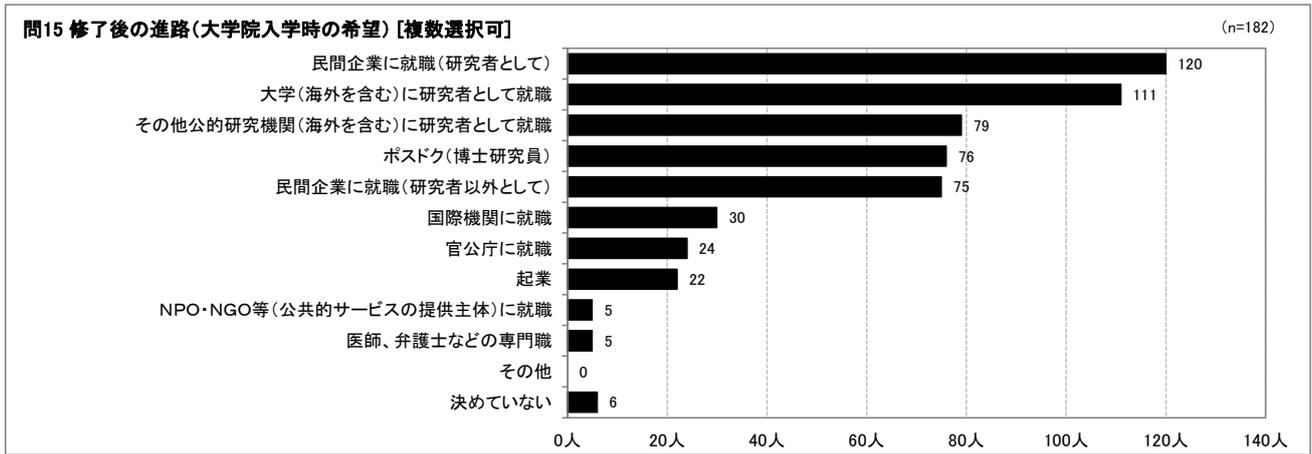


図 15 大学院入学時の修了後の進路の希望 (n=182)

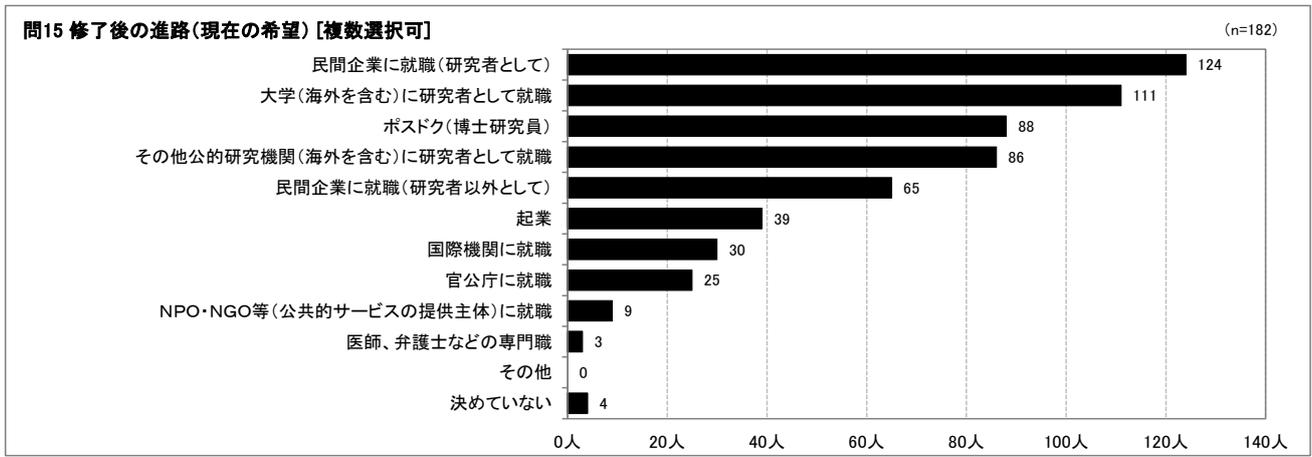


図 16 アンケート回答時点での修了後の進路の希望 (n=182)

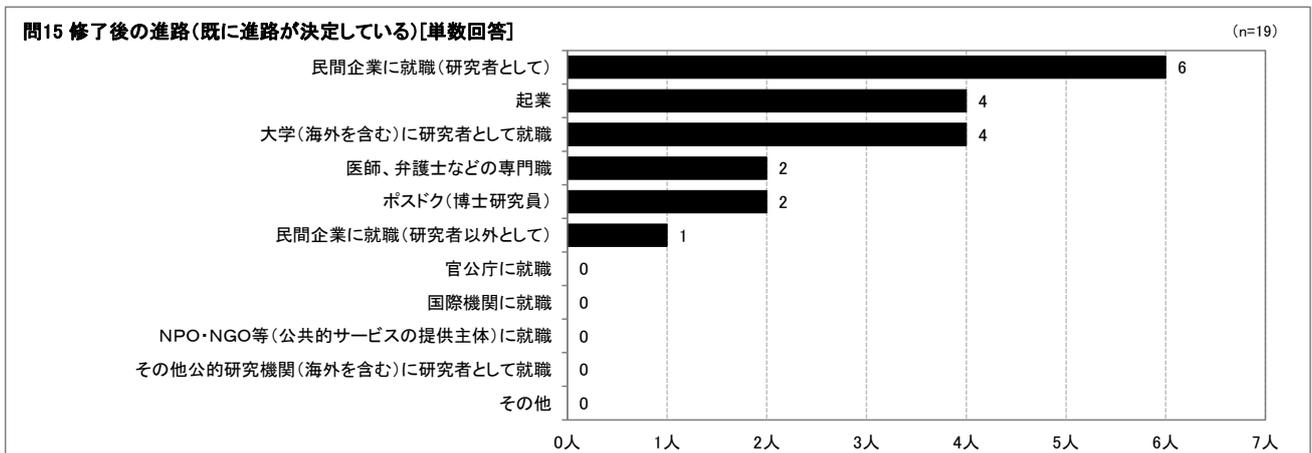
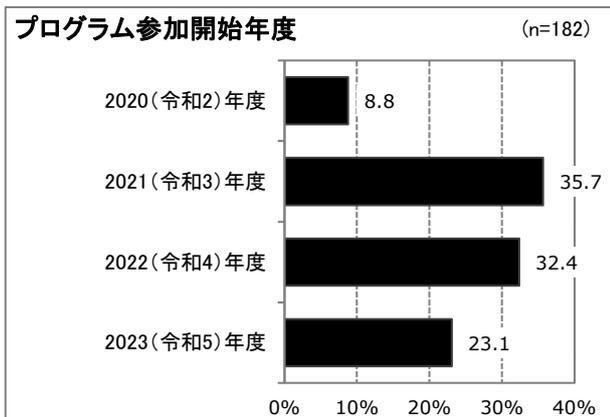
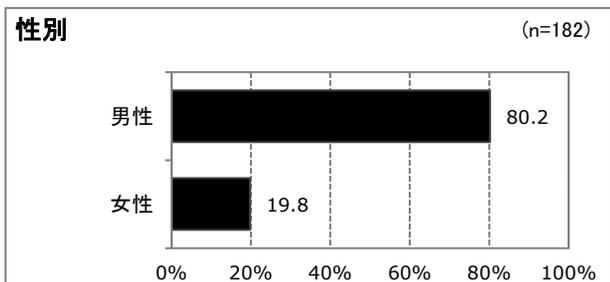
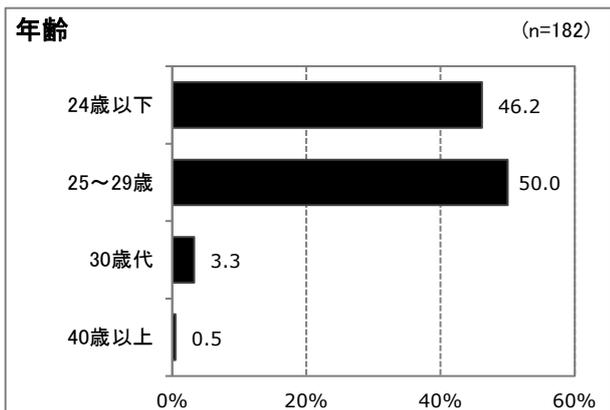


図 17 既に決定している進路 (n=19)

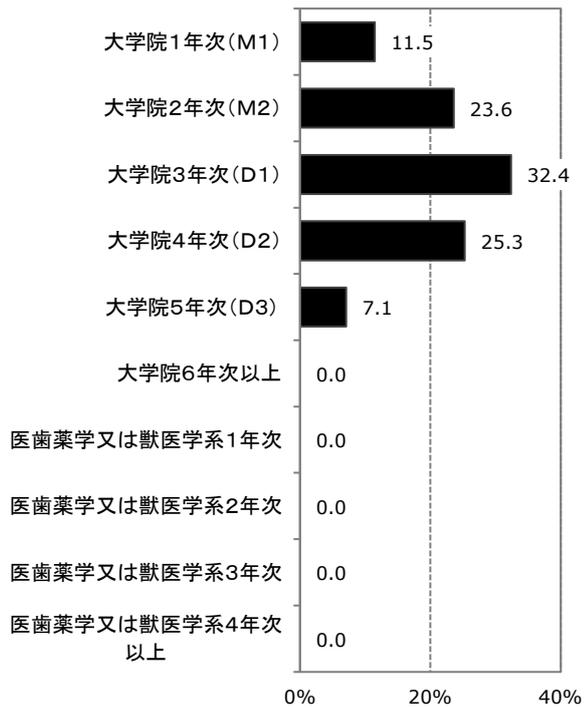
1.1. 学生の属性（問2，3，4，5）

本項目では、アンケートを回答した学生の属性について、各回答を選択した割合を掲載する。



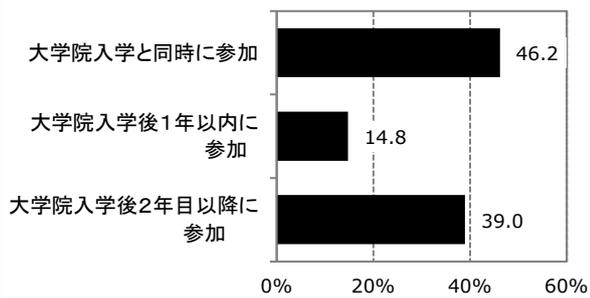
現在の学年

(n=182)



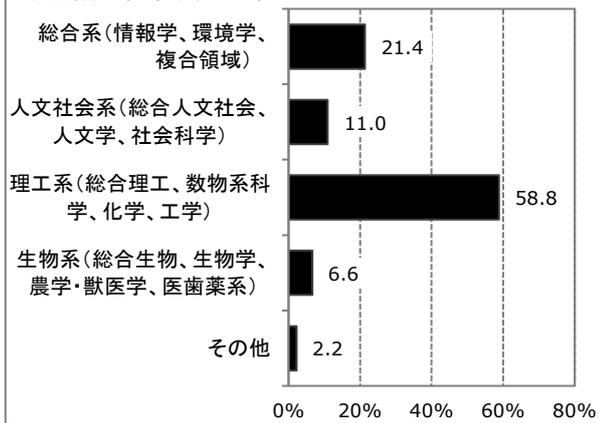
プログラム参加時期

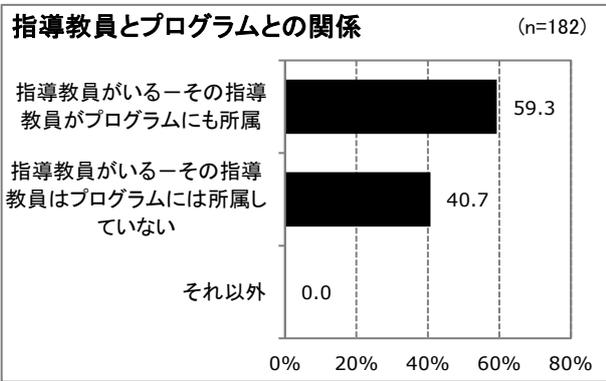
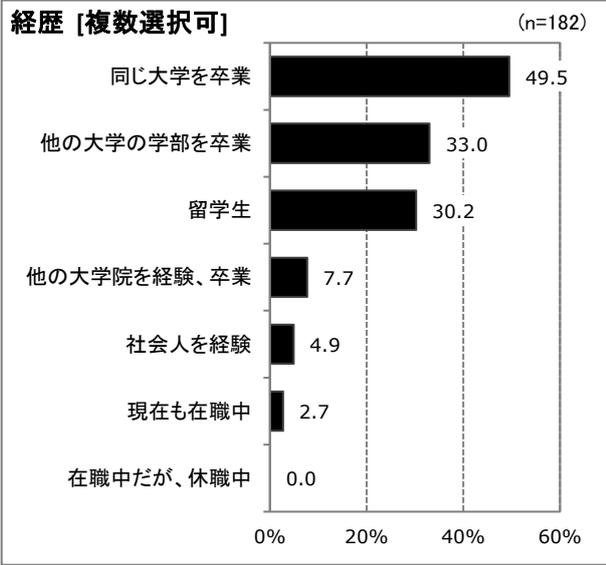
(n=182)



学位論文執筆予定分野

(n=182)





12. プログラム情報の獲得方法（問19）

本項目では、プログラムをどのようにして知ったかについて、回答を選択した人数を掲載する。なお、本項目は任意回答としている。（図18）

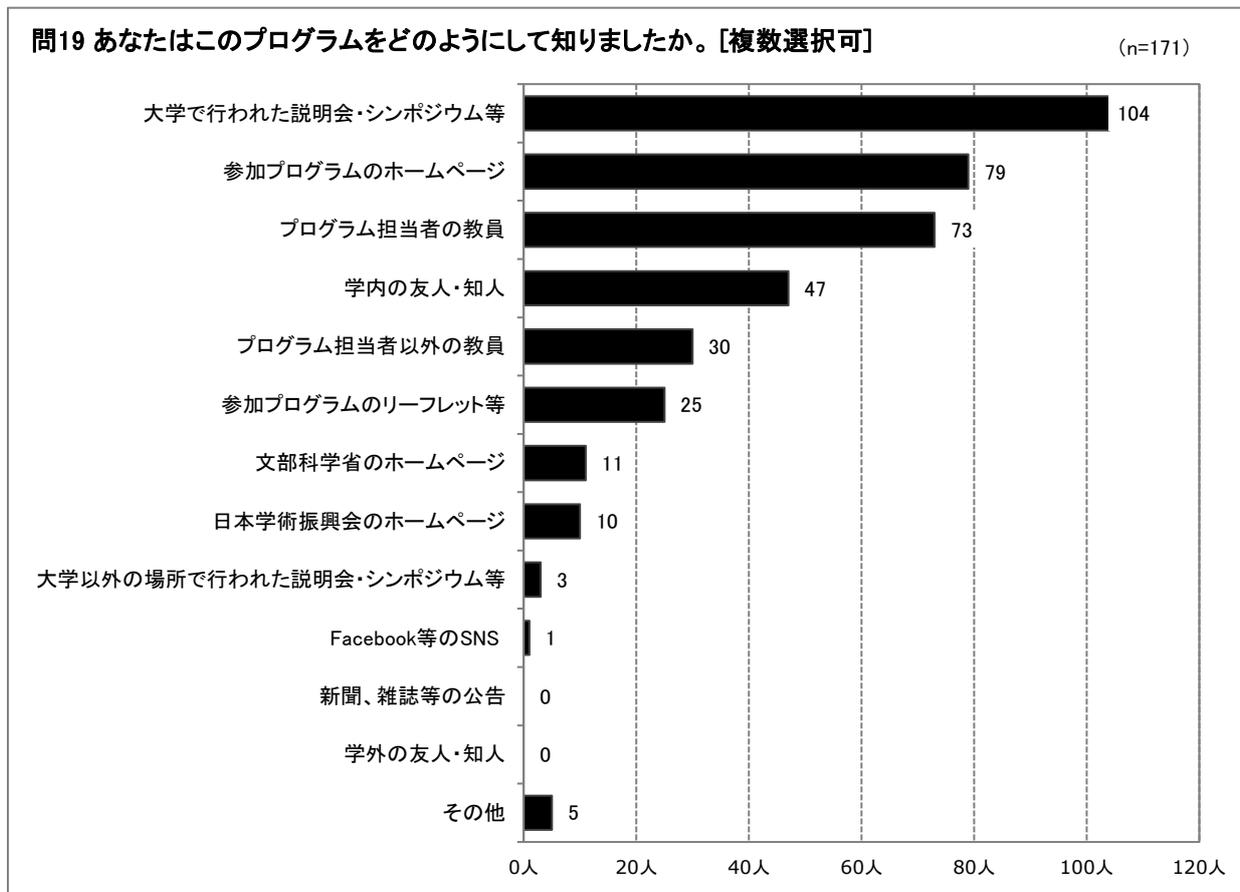


図18 プログラム情報の獲得方法 (n=171)

第2部 プログラム担当者アンケート調査結果

1. プログラムへの関与（問3）

学位プログラムに属する学生の研究指導、学位審査等の質保証を担当し、あるいは履修支援、キャリア形成などを総括しプログラムの実施を責任ある立場で主体的に担う常勤または非常勤の者（以下、プログラム担当者）に対し、本事業への申請時に想定されていたエフォートと、令和3年度の実績としてのエフォートを聞いている（図19）。

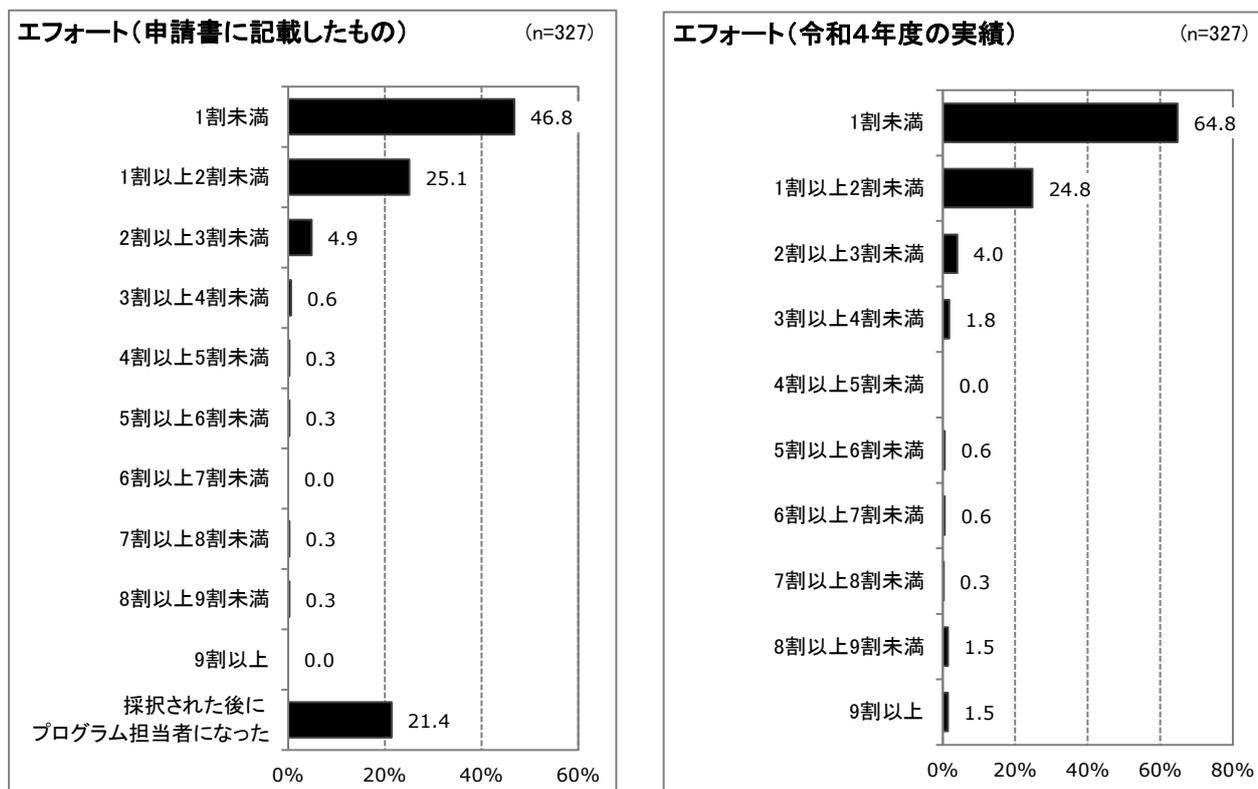


図19 申請時の想定と令和2年度実績のエフォート (n=327)

2. 指導の内容（問5）

プログラム担当者に対し、どのような指導を行っているか（図20）、また行っている場合はその有効性について聞いている（図21）。

行っている指導

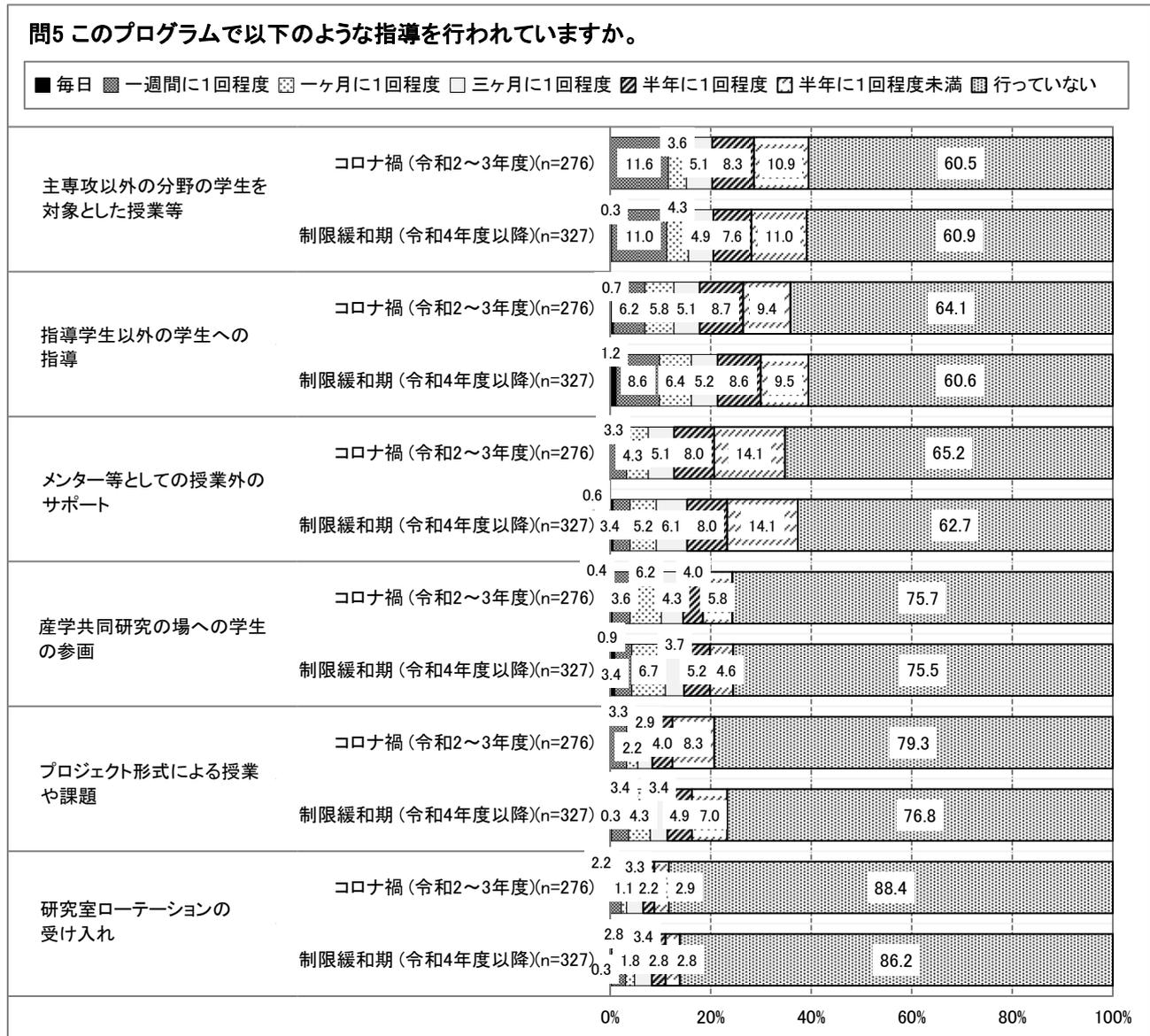


図20 プログラムで担当している指導等（コロナ禍 n=276、制限緩和期 n=327）

指導の有効性

<「よく行っている」「行っている」を選択した場合のみ回答>

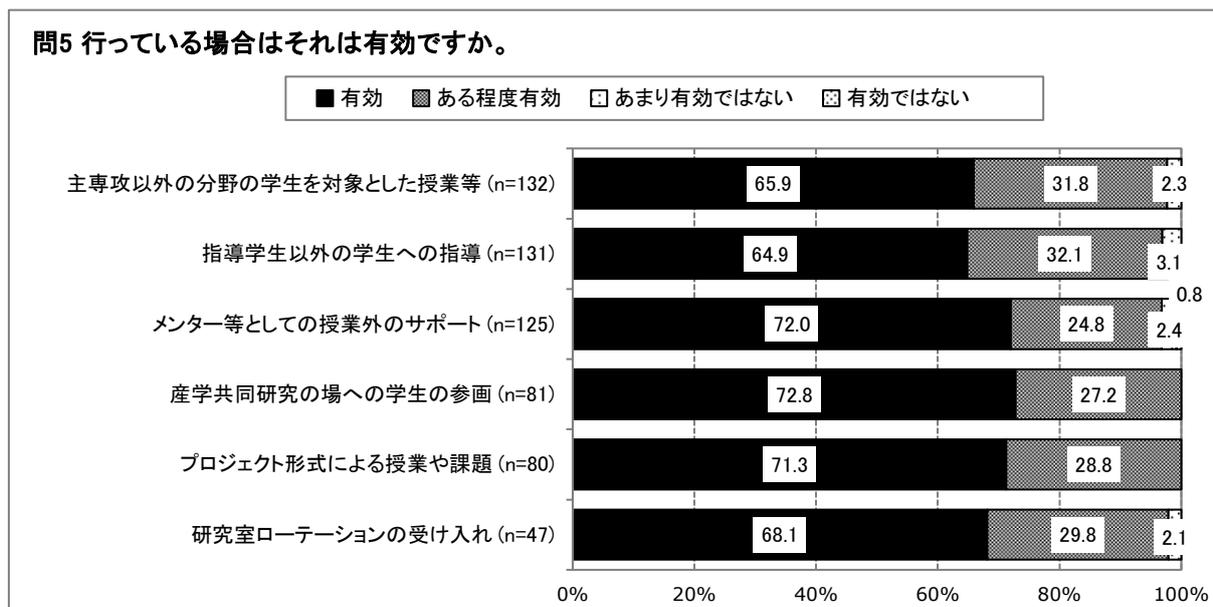


図 21 指導の有効性

3. 実施されたプログラムと整備された環境（問6）

本プログラム内で学生のために実施されたプログラムや整備された環境について、それが十分実施（整備）されていると感じているか（図22）、また「されている」を選択した場合にはそれが有効と考えているかについて聞いている（図23）。

プログラムの実施及び環境の整備状況

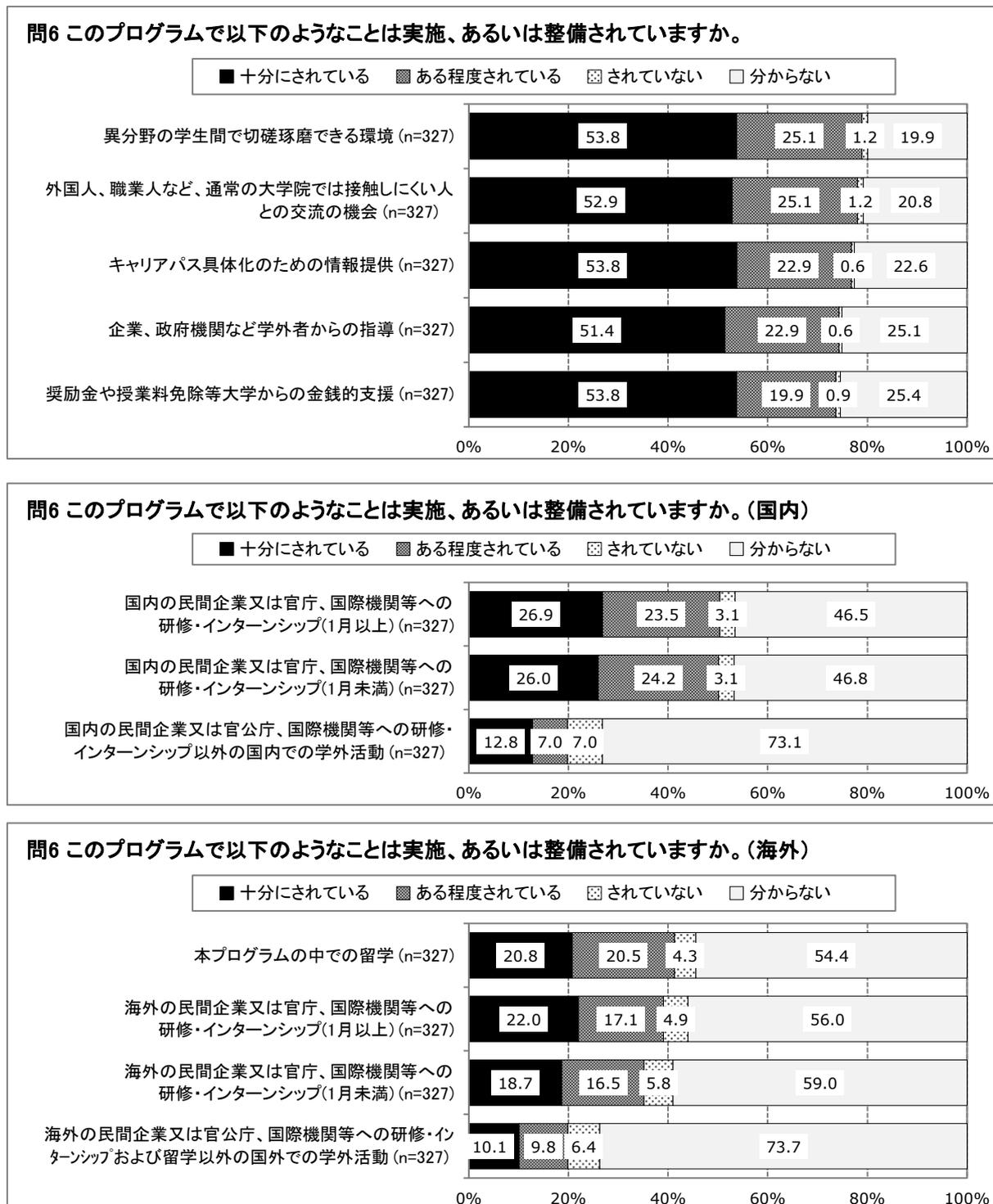


図22 プログラムの実施や環境の整備状況 (n=327)

実施されたプログラムと整備された環境の有効性

<「分からない」以外を選択した場合のみ回答>

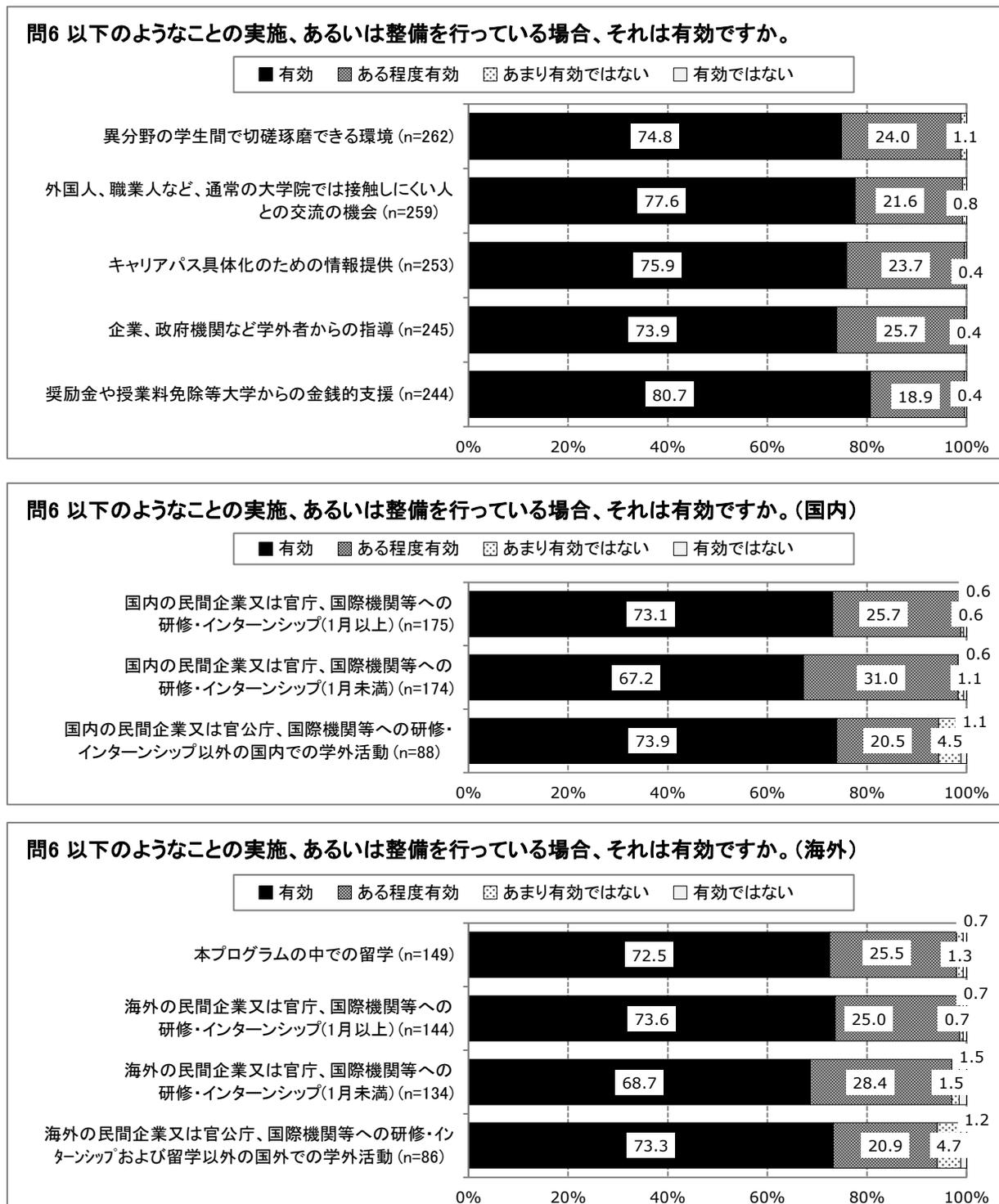


図 23 実施されたプログラムと整備された環境の有効性

4. プログラムの有効性（問7）

各プログラムに参画することにより、学生に各能力を身に付けさせることができるか、その有効性を聞いている（図24）。

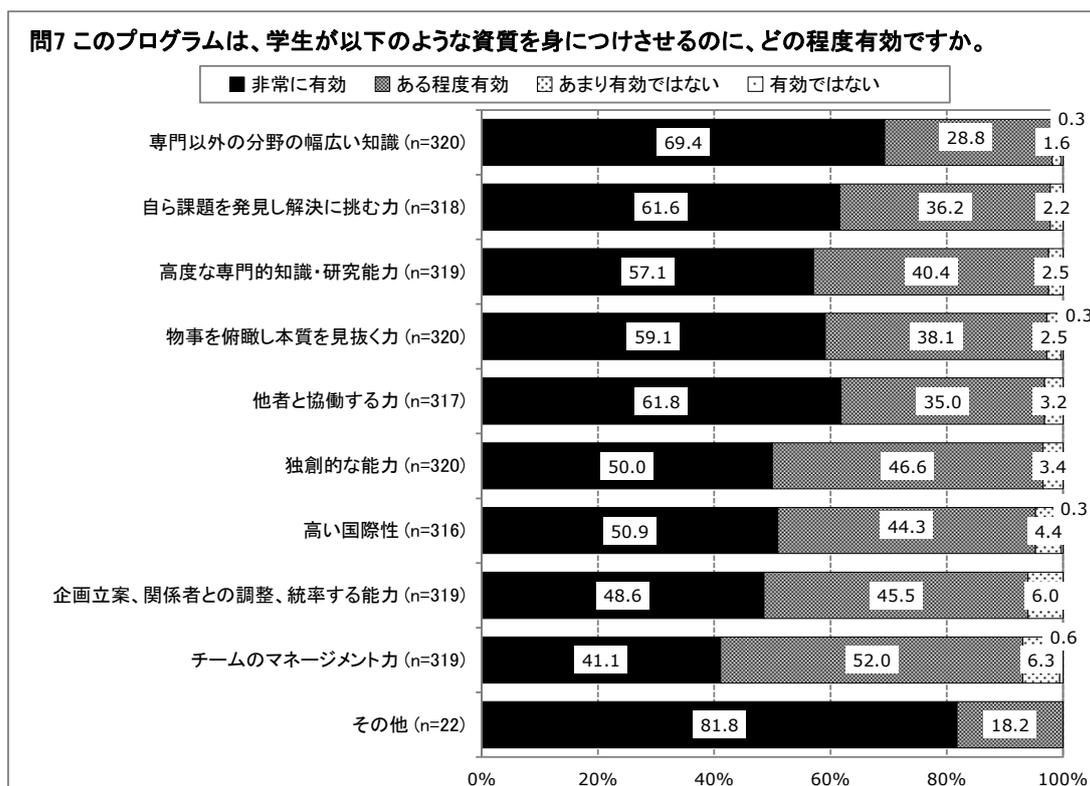


図24 学生へ能力を身に付けさせるためのプログラムの有効性

5. 運営・管理（問8）

プログラムの運営・管理の面についての印象をプログラム担当者へ聞いている（図25）。

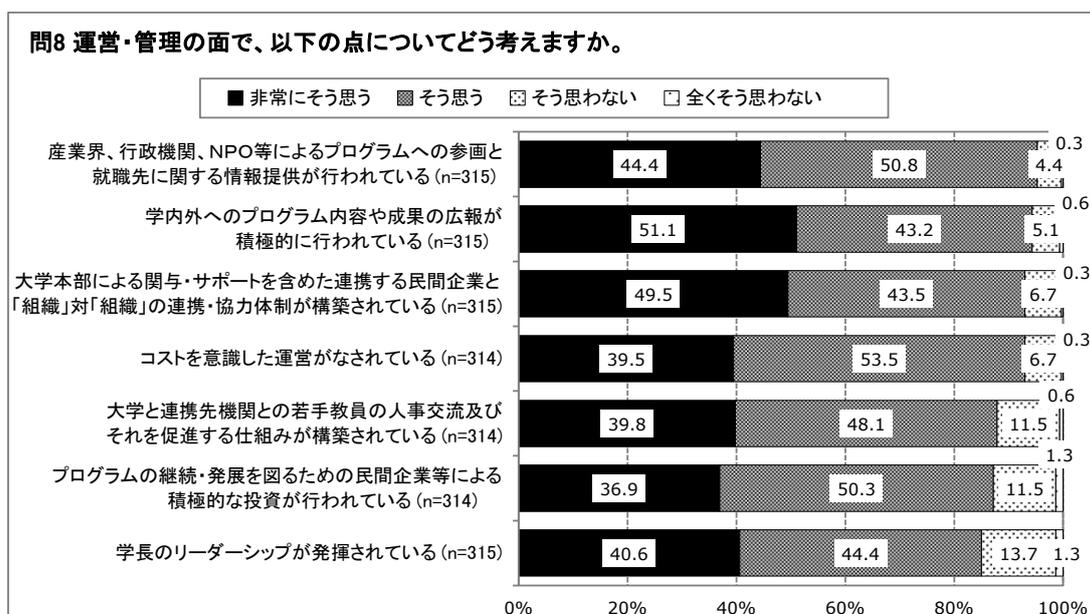


図25 運営・管理の面での印象

6. プログラムに対する印象（問9）

プログラムに参加している学生やプログラムの将来展望などを含めた、プログラムの印象を聞いている（図26）。

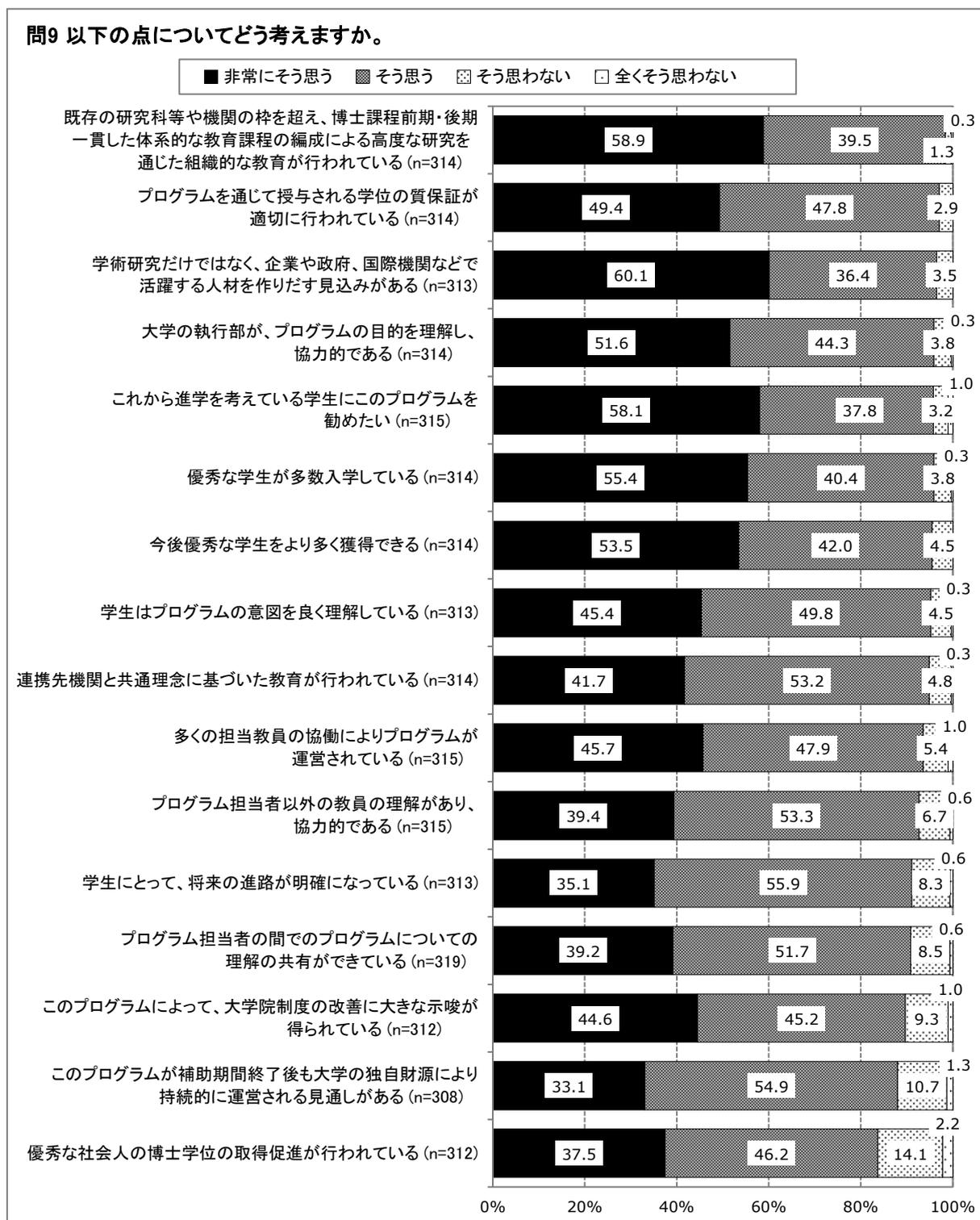


図26 プログラムに対する印象

7. 指導・支援の改善のための評価等の実施（問10）

プログラムで担当する指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケートを行っているか聞いている（図27）。

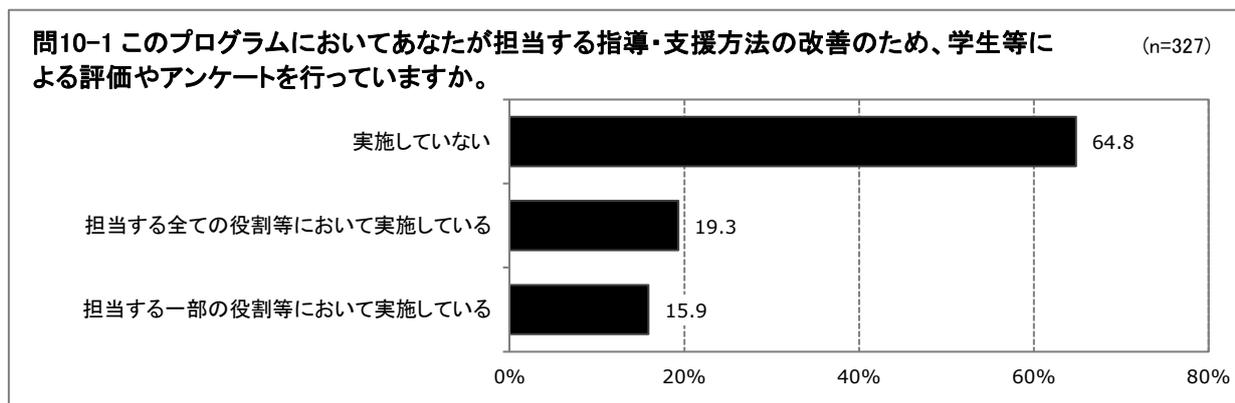


図27 指導・支援の改善のための評価等の実施 (n=327)

8. 学生への効果・負担（問11）

学生への効果や負担等について聞いている（図28）。

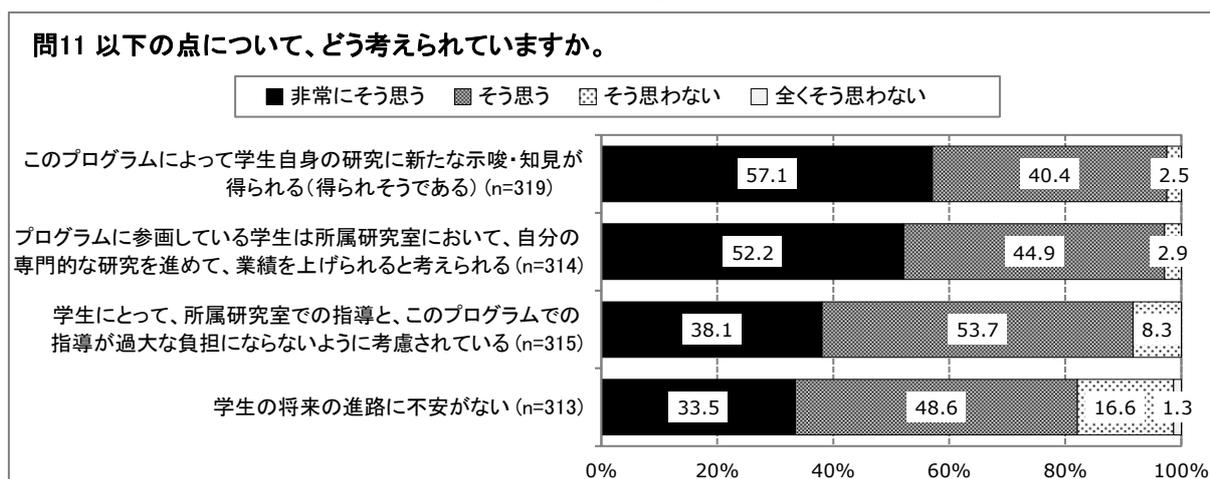
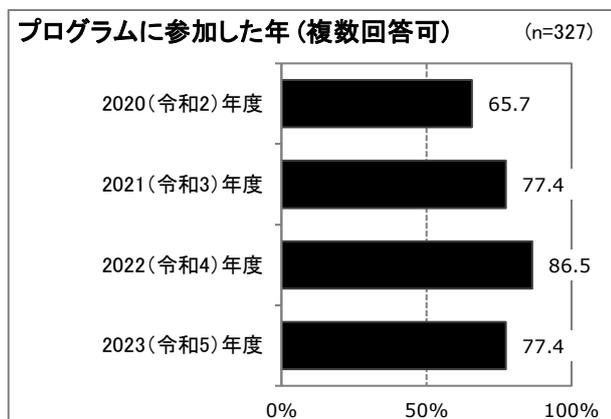
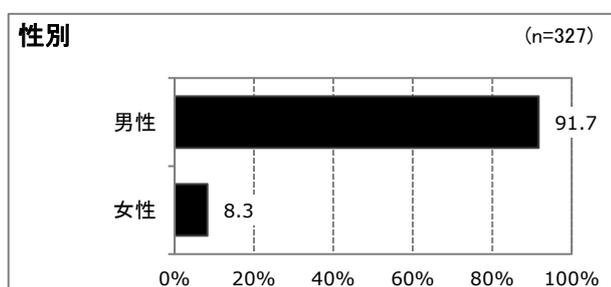
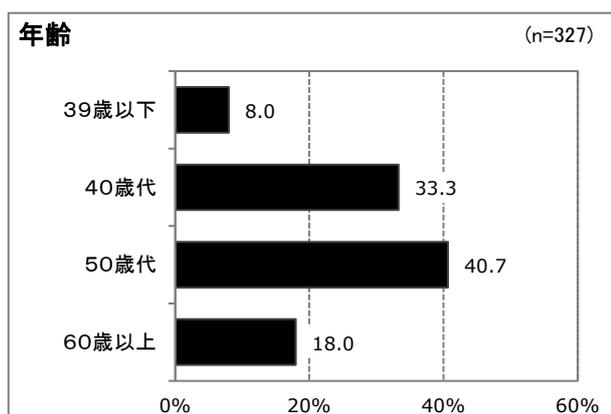


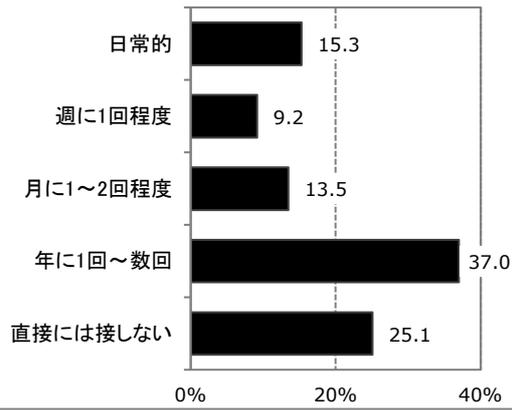
図28 学生への効果・負担等

9. 参加教員の属性（問2，3，4）

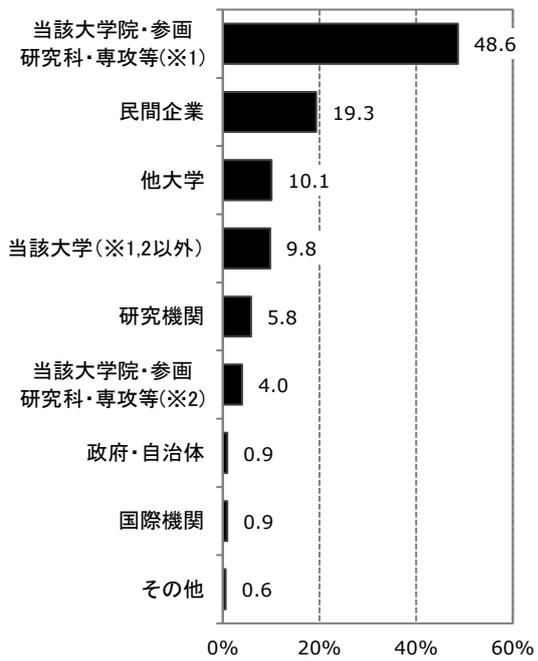
本項目ではアンケートに回答したプログラム担当者の属性について、各回答を選択した割合を掲載する。



本プログラムの学生に直接に接する頻度 (n=327)



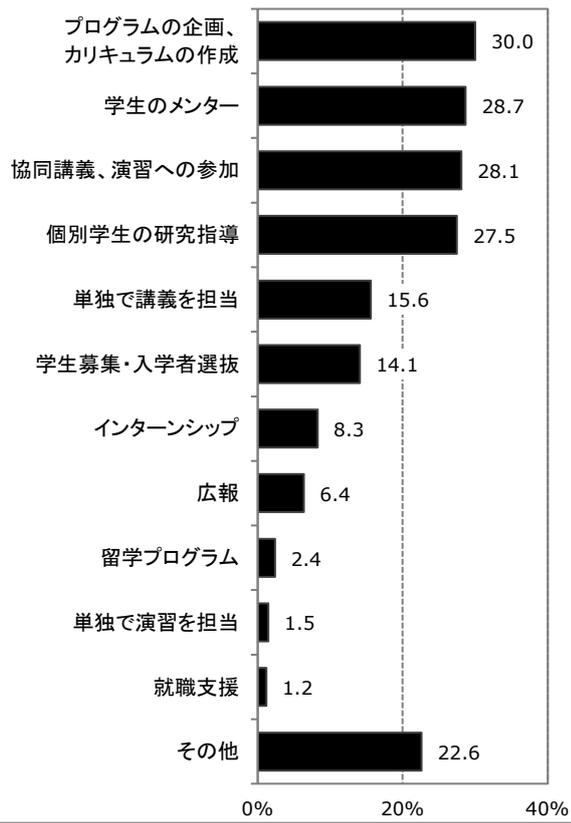
所属(本務) (n=327)



※1: プログラムの経費により雇用されている者を除く

※2: プログラムの経費による雇用

プログラム内の担当（複数回答可） (n=327)



附録A サンプルと回答者数

	機関名	プログラム名称	学生			プログラム担当者		
			対象者	回答者	回答率	対象者	回答者	回答率
2001	東京工業大学	マルチスコープ・エネルギー卓越人材	63	54	85.7%	121	84	69.4%
2002	名古屋大学	ライフスタイル革命のための超学際移動イノベーション人材養成 学位プログラム	61	60	98.4%	103	95	92.2%
2003	京都大学	社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム	29	26	89.7%	92	79	85.9%
2004	九州大学	マス・フォア・イノベーション卓越大学院	49	42	85.7%	84	69	82.1%
卓越大学院プログラム中間評価総計			202	182	90.1%	400	327	81.8%

附録B 学生アンケート調査と単純集計結果

卓越大学院プログラム 令和2年度採択プログラム中間評価 学生アンケート調査

- この調査は卓越大学院プログラム（注）の令和2年度採択プログラムの中間評価の一環として実施するものです。採択されたプログラムに参加する皆さん（大学により各プログラムに選抜された学生）にご意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省の施策の検討の参考とします。
- いただいた回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることはありません。調査結果については、プログラムの改善に資するため、記入した個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合などの処理を行った上で、当該大学に対し情報提供を行うとともに、集計結果を個人等が特定されない範囲で公表することもあります。

注 <卓越大学院プログラムとは>

「卓越大学院プログラム(WISE Program : Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education)」(以下「本事業」という。)は、新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材(高度な「知のプロフェッショナル」)を育成することを目的とする事業です。

本事業により、これまで行われてきた世界的課題を解決するグローバルリーダーの育成に加え、今後はさらに、世界の学術を牽引する卓越した研究者や、知を社会に実装することを主導する起業家、イノベーションをリードする企業人、国内外のパブリック・セクターにおいて政策立案をリードする人材など、俯瞰力及び独創力並びに高度な専門性を備え、大学や研究機関、民間企業、公的機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材、すなわち、高度な「知のプロフェッショナル」をあらゆるセクターに対し輩出することが期待されています。

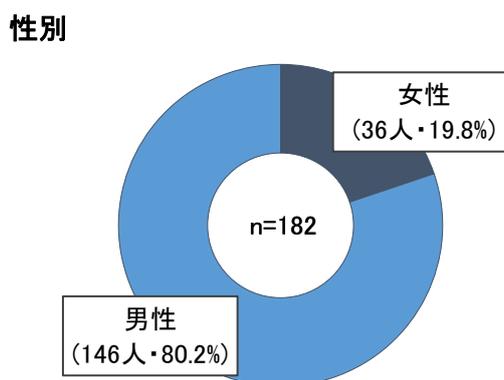
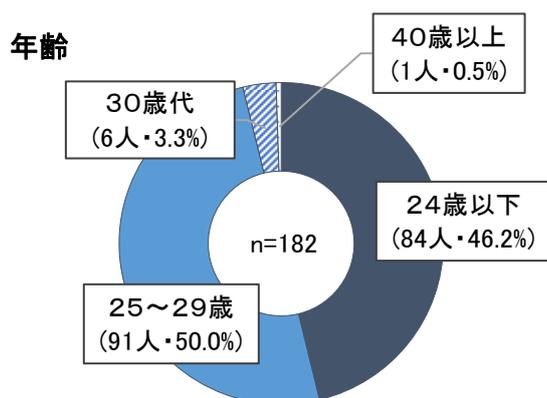
参加されているプログラムと、御自身についてうかがいます

I. 回答者の属性

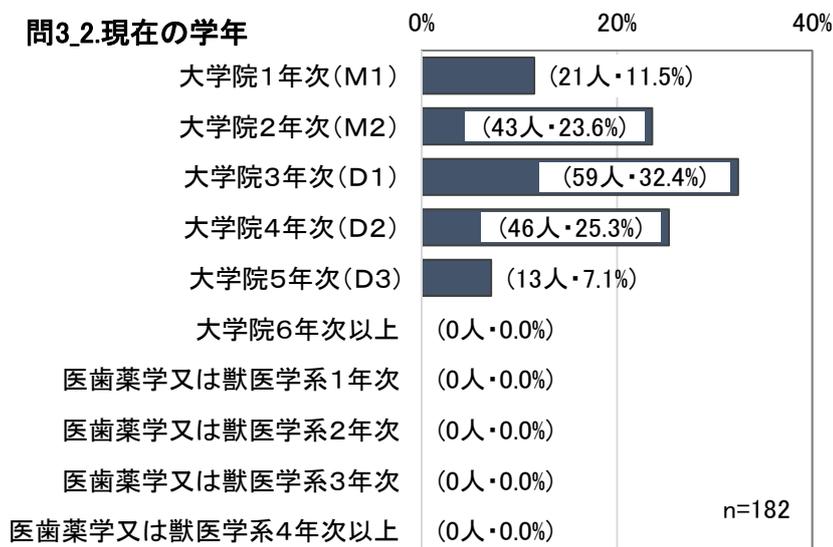
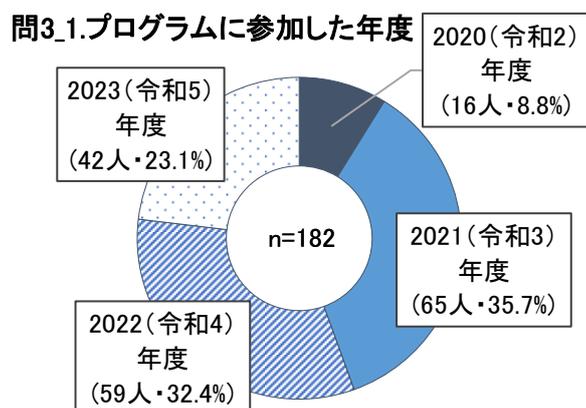
問1 大学・プログラム名・公募の領域

全体

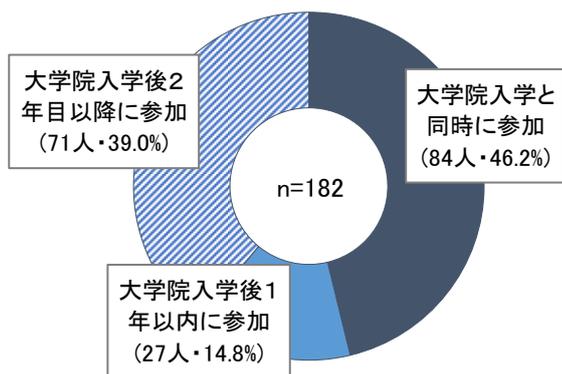
問2 年齢、性別



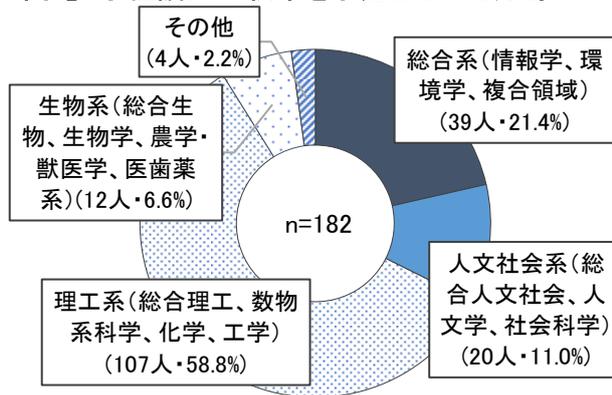
問3 プログラムとの関係



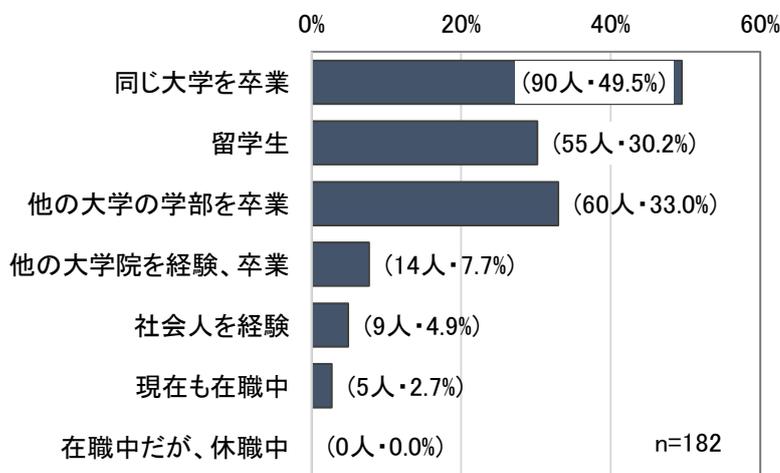
問3_3.入学時からプログラムに参加しましたか



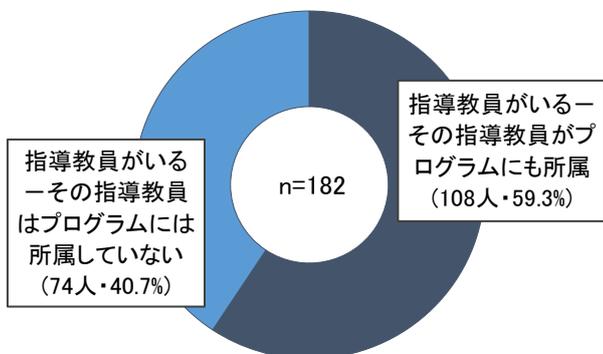
問3_4.学位論文の執筆を予定している分野



問4 経歴についてあてはまるものすべてにチェックしてください。

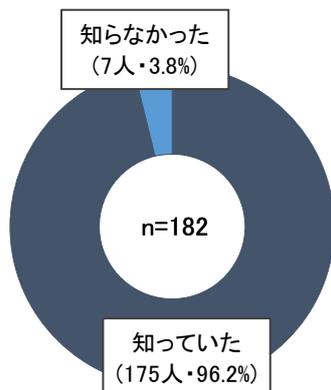


問5 指導教員(専門分野における研究指導を主に行う教員1名)と、プログラムとの関係 (あてはまるものに○)



Ⅱ. 事業趣旨の理解

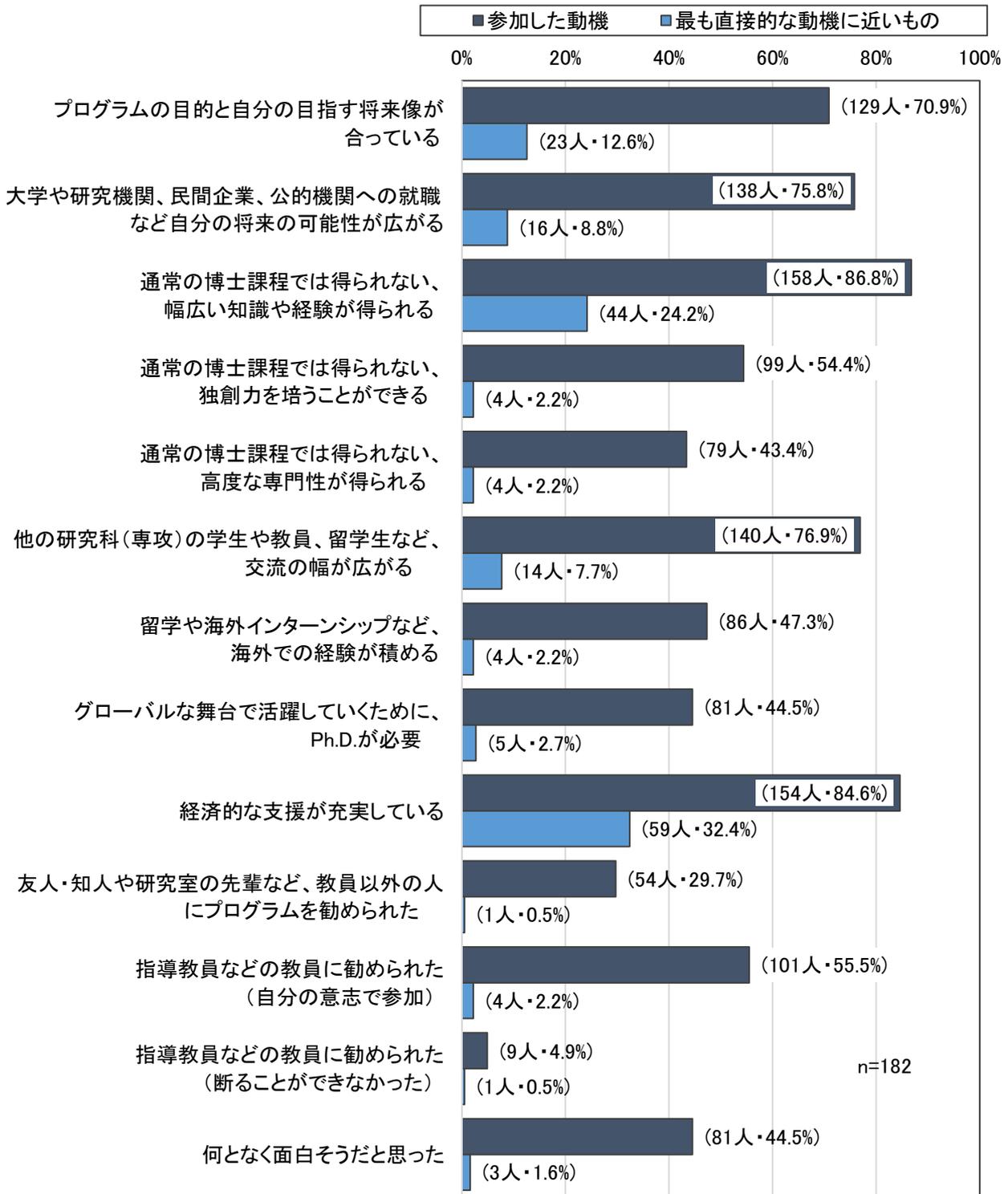
問6 本事業の目的（1 ページ「卓越大学院プログラムとは」を参照）に沿って、大学はプログラムを実施していますが、本事業の趣旨を知っていましたか。



上記を選択した理由などについて自由に記述してください。

Ⅲ. プログラムへの参加動機

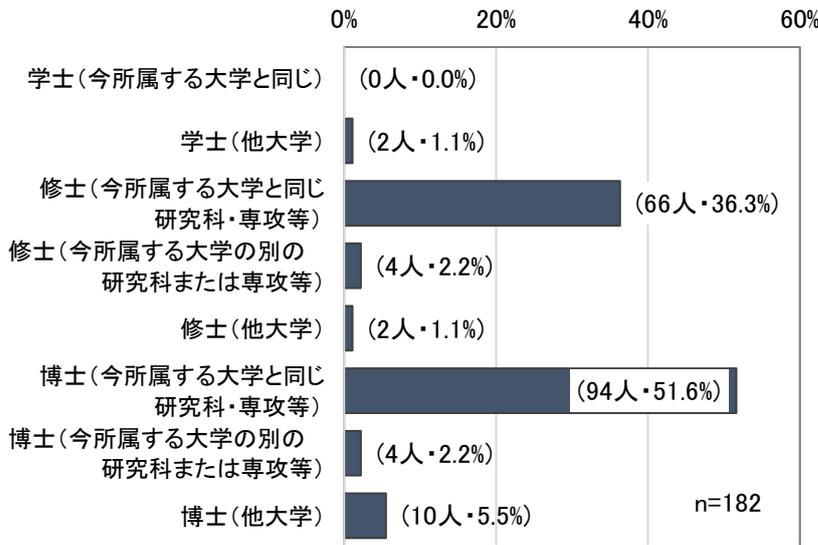
問7-1 あなたがこのプログラムに参加した動機として、あてはまるもの全てにチェックしてください。また、その中で最も直接的な動機に近いもの1つに○をしてください。



その他の理由がある場合や、上記を選択した理由などについて自由に記述してください。

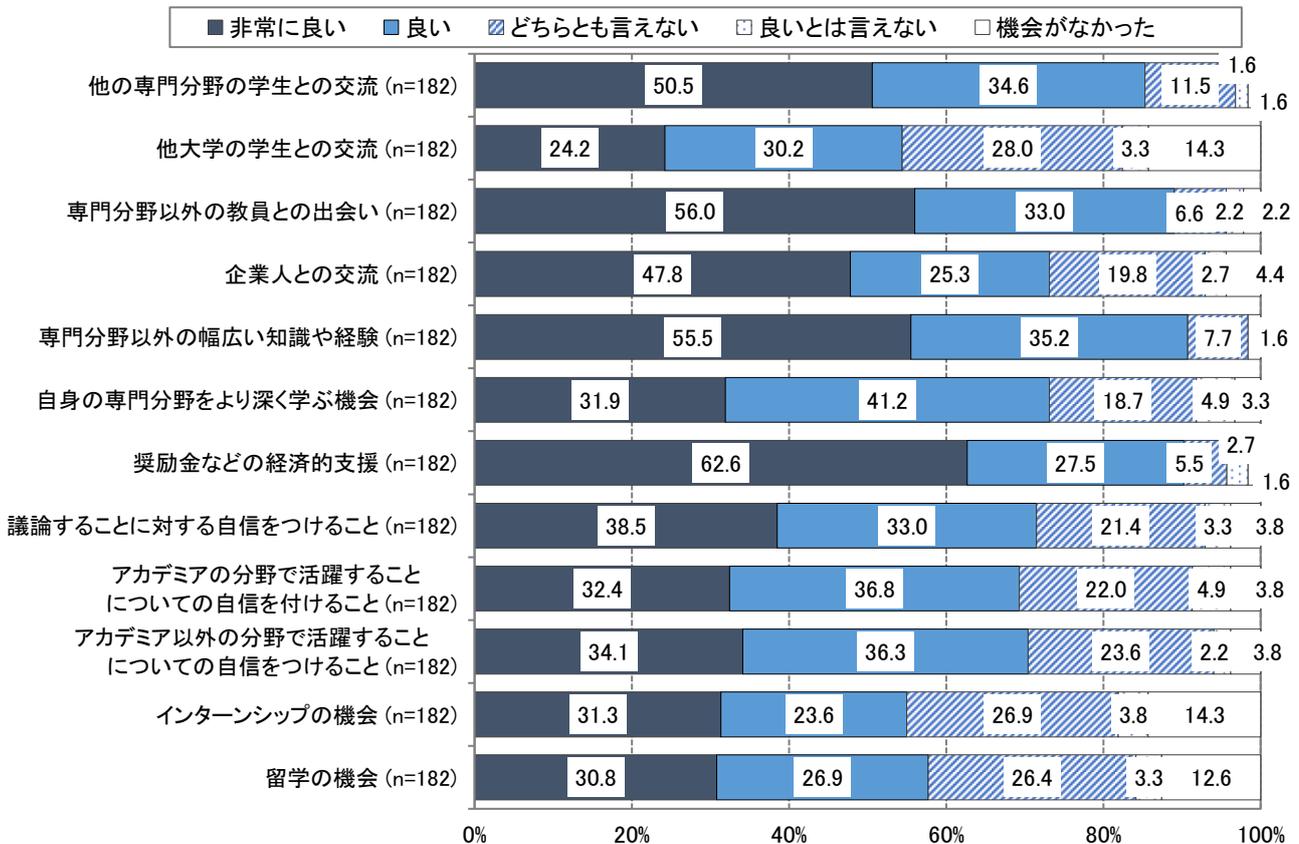
IV. プログラムがなかった場合の経歴

問7-2 このプログラムがなかった場合、あなたの最終学位としてどれを選択していましたか。



V. プログラムの内容に対する評価

問8 プログラムの以下のような点をどのように評価されますか。



問9 問8の項目以外にプログラムの評価できる点、できない点を自由に記述してください。

--

プログラムでの実施状況について感想をうかがいます

VI. プログラムで受けた指導とその有効性

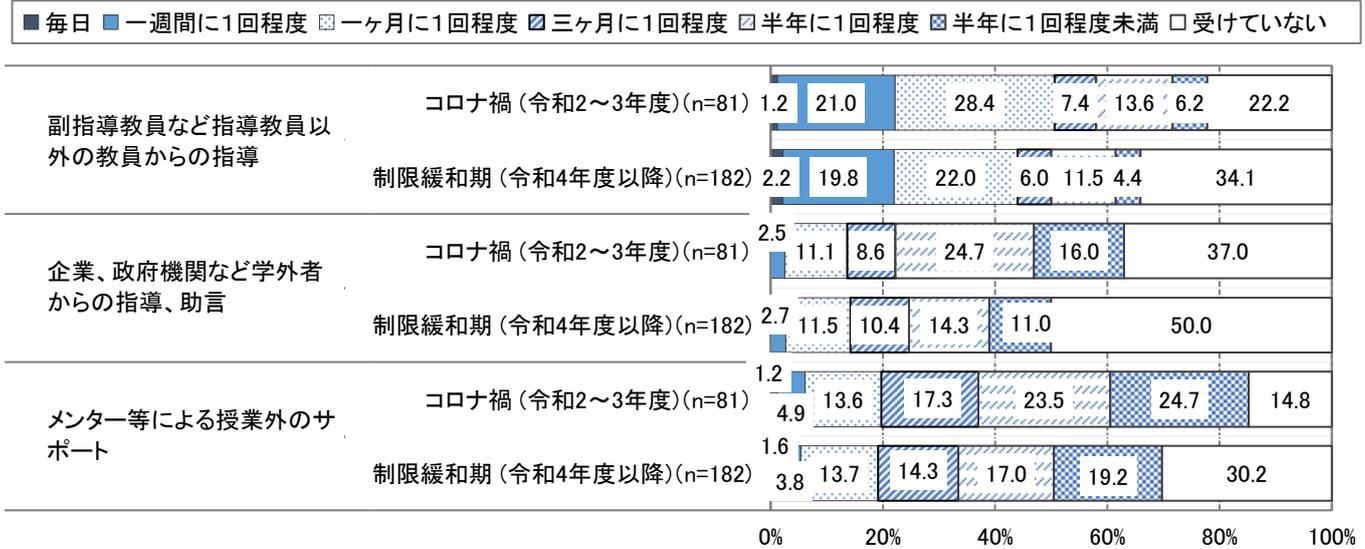
問10 このプログラムで、下のような指導を受けましたか。また受けた場合、それは有効ですか。

コロナ禍(令和2～3年度)と制限緩和期(令和4年度以降)のそれぞれについて回答してください。

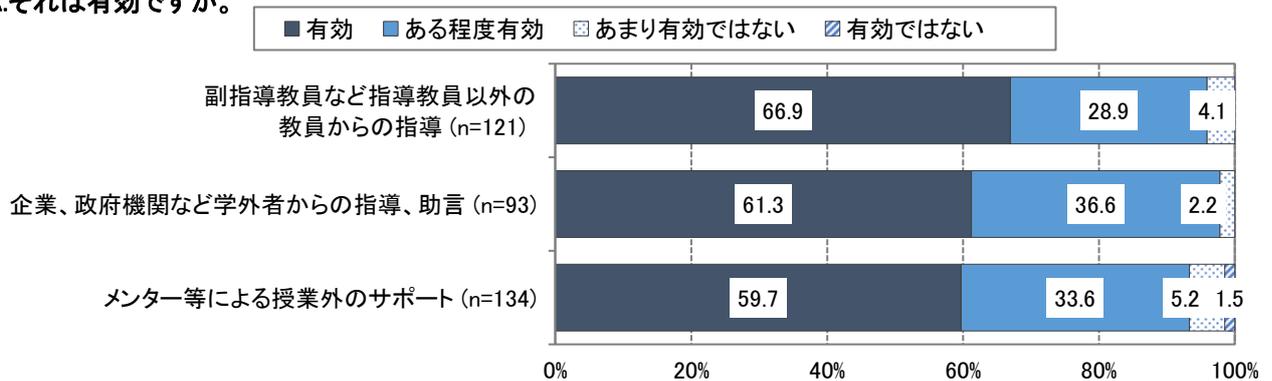
※2022(令和4)年度以降に入学した学生は「コロナ禍(令和2～3年度)」に関する質問には回答不要です。

<人的な指導>

問10A.このプログラムで、下のような指導を受けましたか。

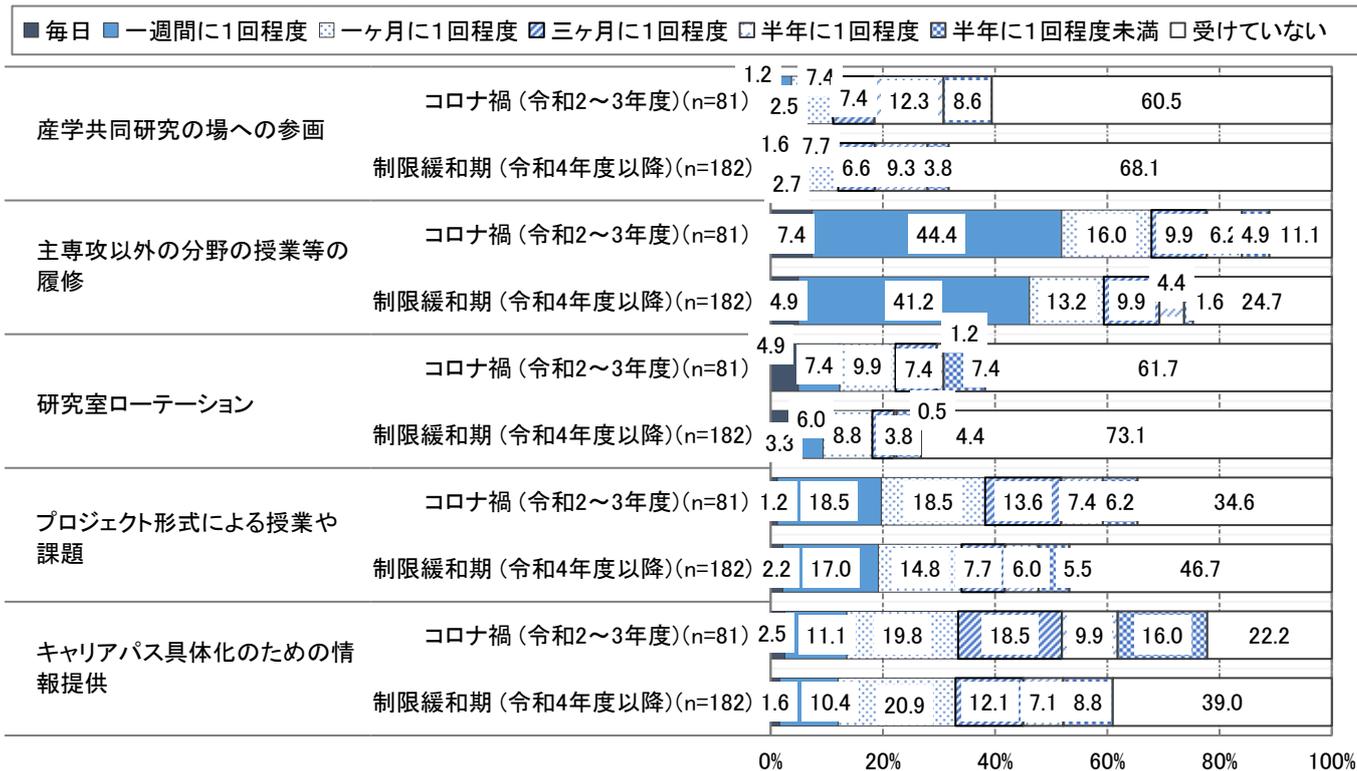


問10A.それは有効ですか。

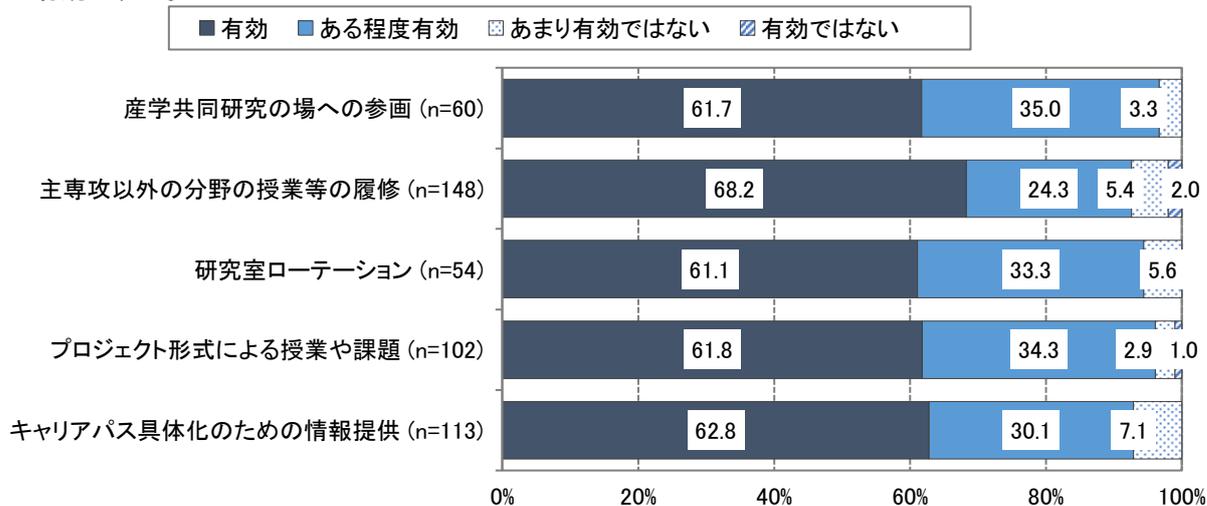


<機会の提供>

問10B.このプログラムで、下のような指導を受けましたか。



問10B.それは有効ですか。



※「研究室ローテーション」については、実施した期間について、「1. 1年のうち1週間程度」「2. 1年のうち2週間程度」「3. 1年のうち1ヶ月程度」「4. 1年のうち2ヶ月程度」「5. 1年のうち3ヶ月程度」「6. 1年のうち半年程度」「7. 受けていない」から選択

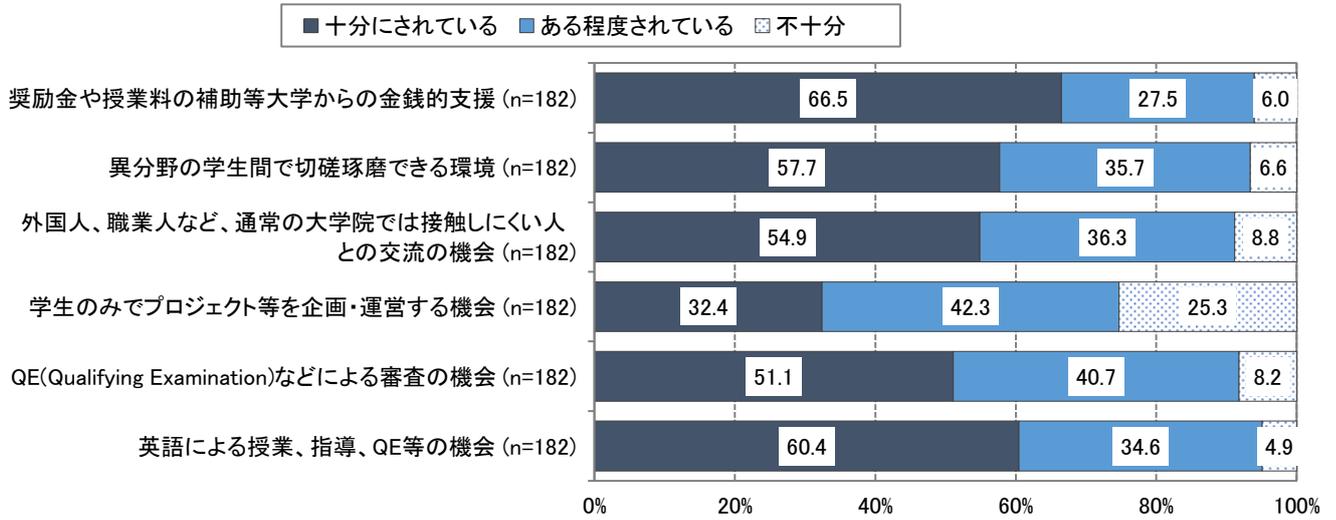
上の理由や特に有効又は有効でないと思ったことがあれば自由に記述してください。

新型コロナウイルス感染症の影響により、当初に予定されていた実施方法とは別の方法により代替して行われた指導等があれば、その内容を記述してください。

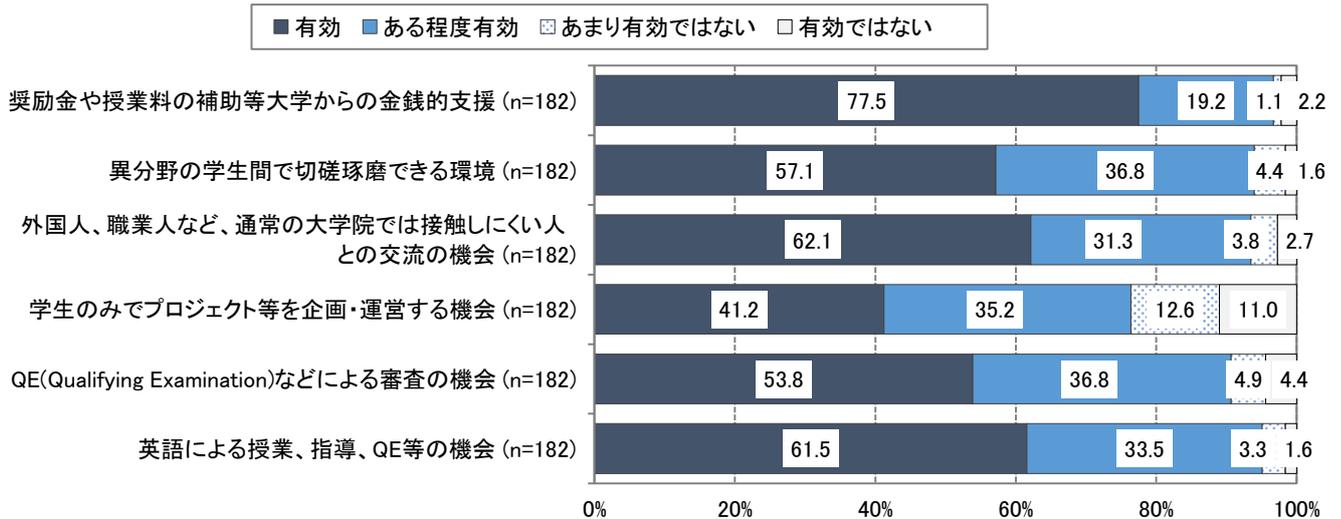
VII. 修学環境の整備とその有効性

問11A. このプログラムで、下のようなことは整備され、経験していますか。またそれは有効に機能していますか。(それぞれ該当する回答をクリック)

問11A.下のことを経験しましたか。



問11A.それは有効に機能していますか。

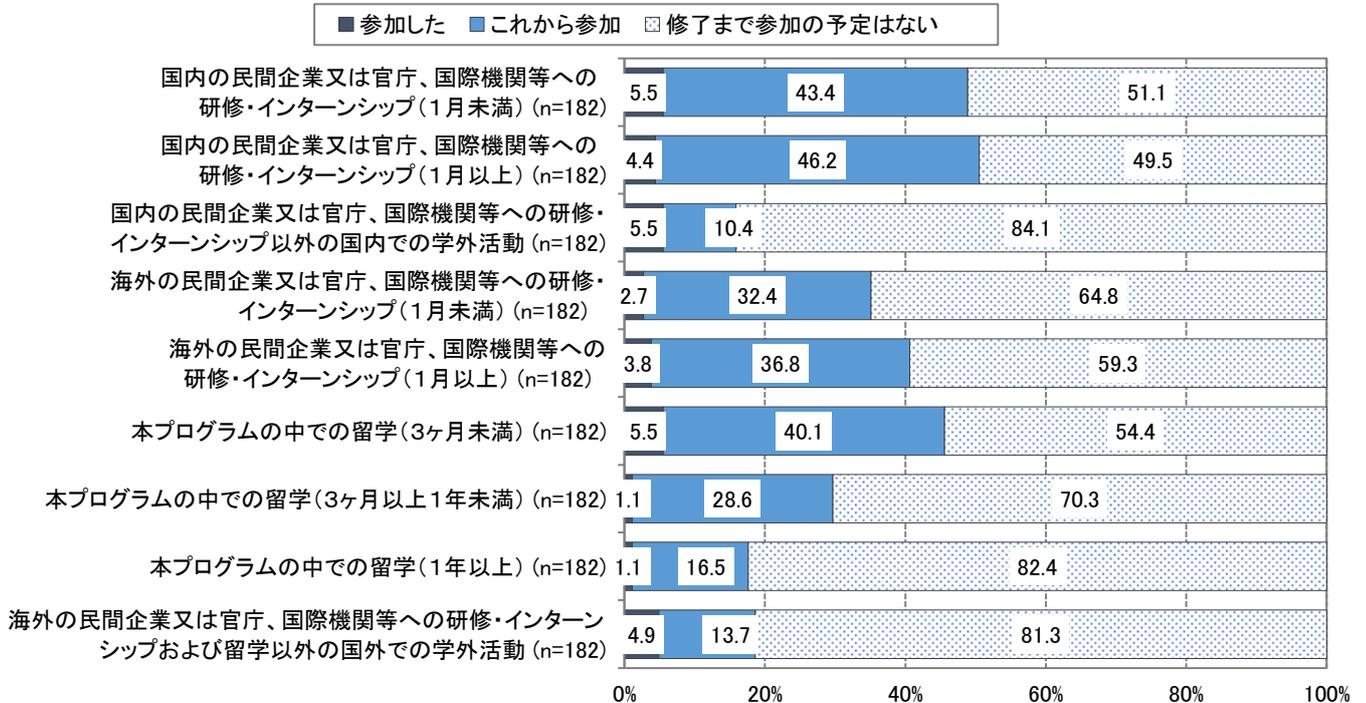


上の理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

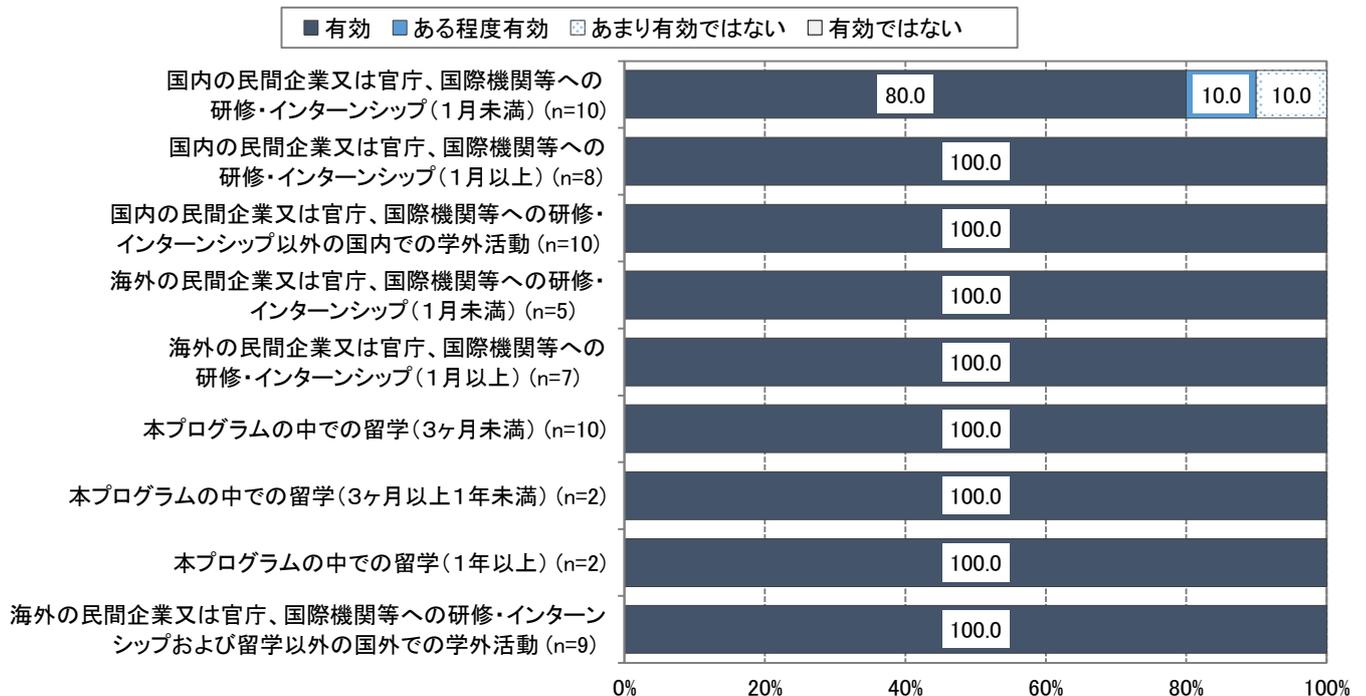
VIII. プログラムでの経験とその有効性

問11B. このプログラムの枠によって、下のことを経験しましたか、また経験した場合それは有効でしたか。
 (※プログラムのカリキュラムに以下の制度・取組がない場合は「修了まで参加の予定はない」をチェックしてください。)

問11B.下のことを経験しましたか。



問11B.それは有効に機能していますか。

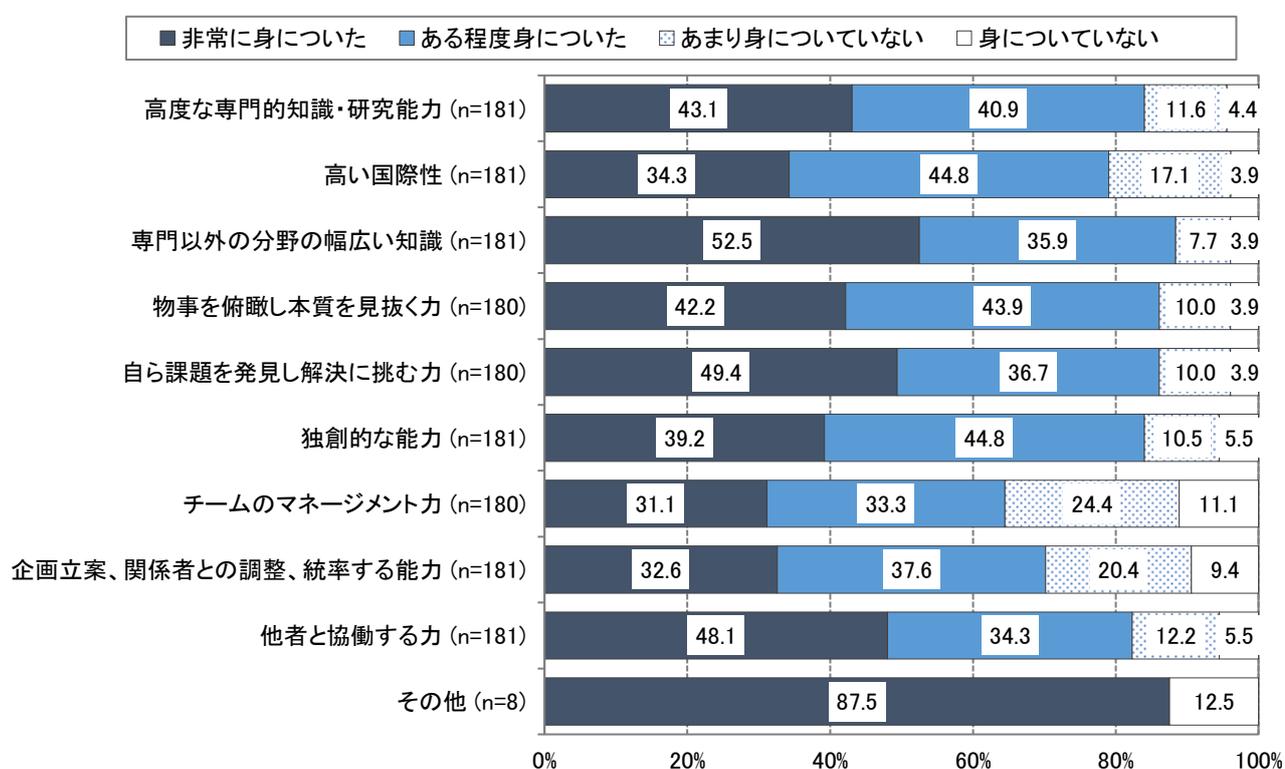


上の理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

インターンシップや留学等について、新型コロナウイルスの感染症の影響があれば記述してください。また、当初に予定されていた実施方法とは別の方法により代替して行われたことがあれば、その内容を記述してください。

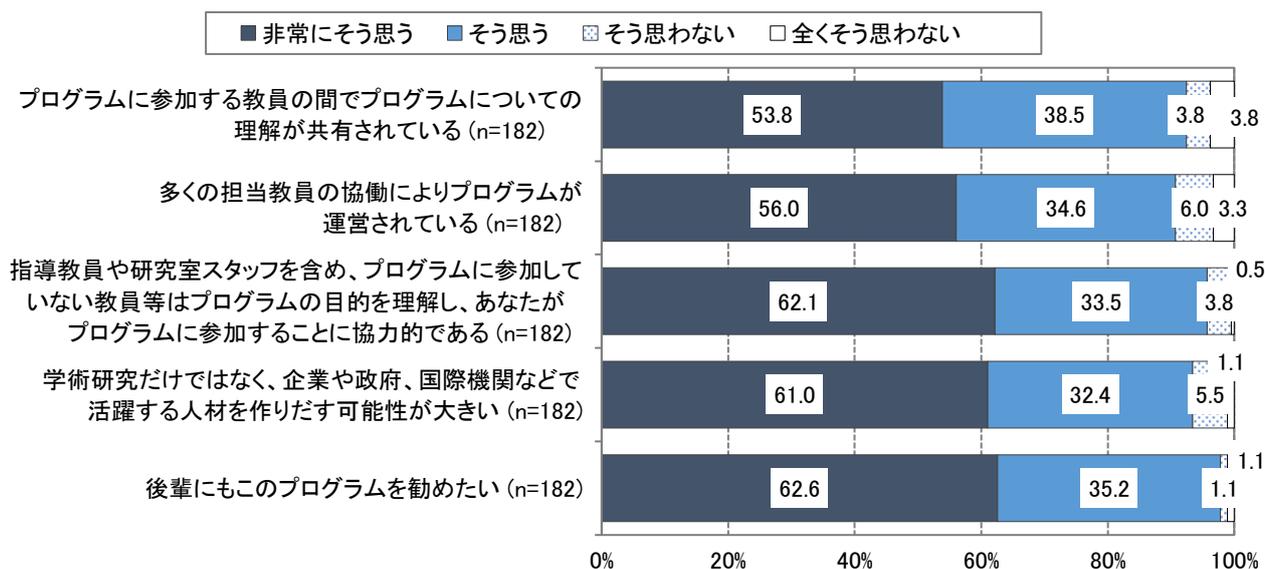
IX. プログラムで身に付いた能力

問12 このプログラムによって、下のような能力は身についたと思いますか。



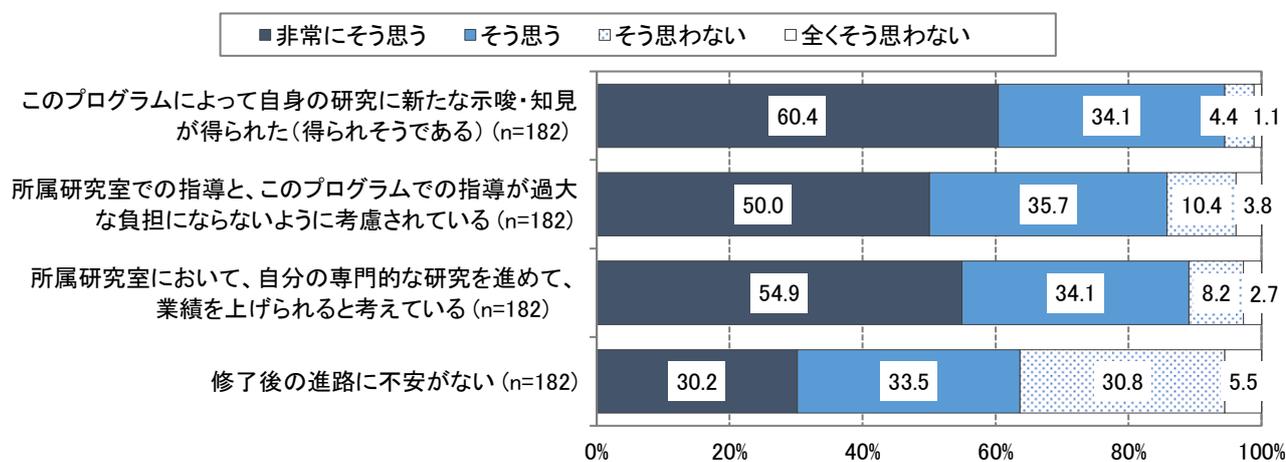
X. 教員の理解度等

問13 以下のような点について、どう考えていますか。



XI. プログラムの効果・負担等

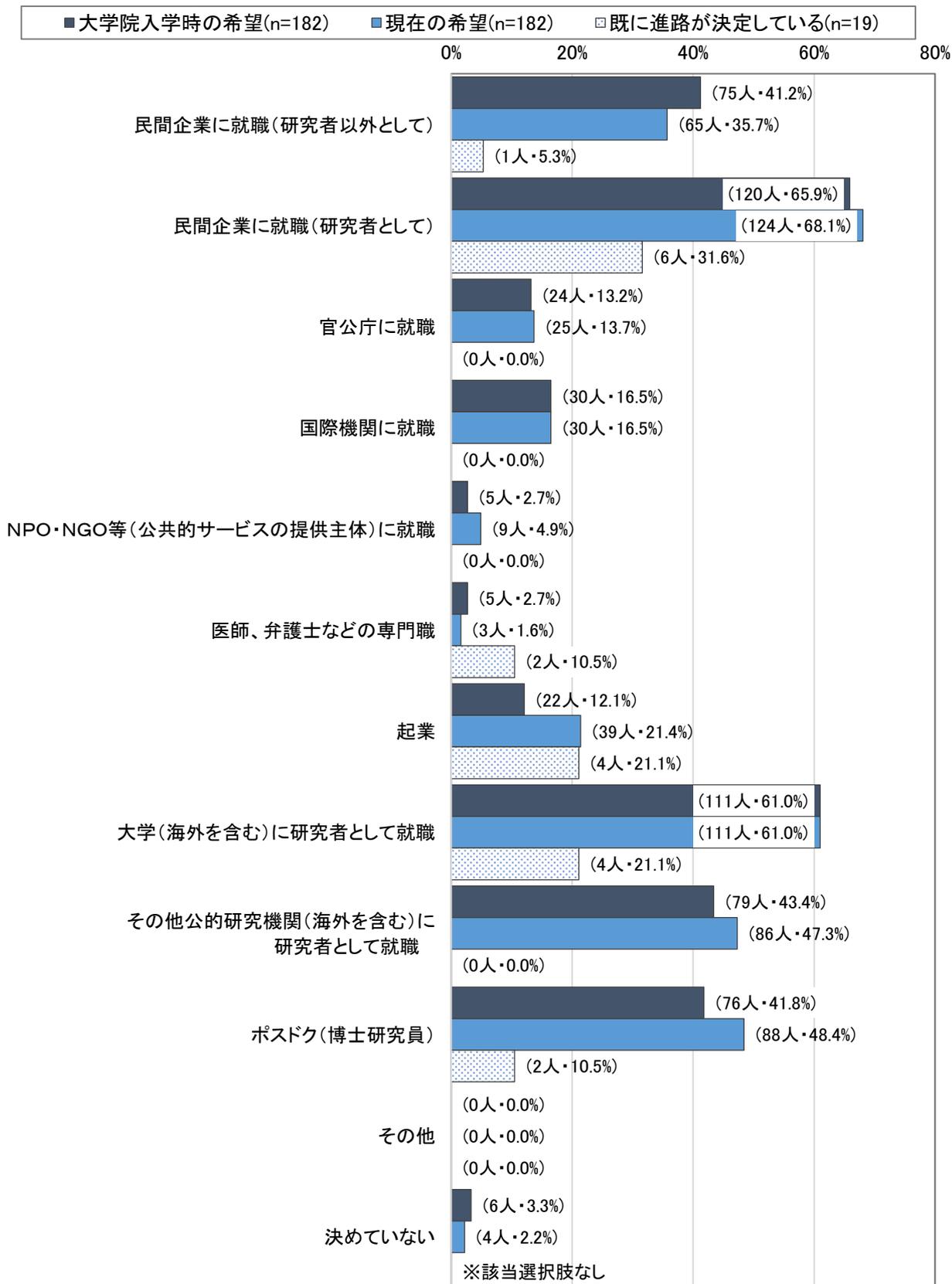
問14 以下のような点について、どう考えていますか。



ご自身の今後の希望や本プログラムによる成果などについてうかがいます

XII. 修了後の進路

問15 修了後の進路についてどのような希望をもっていますか。



問16 プログラムへの参加によって、あなたの人生観、職業観、世界観、国際意識などがどのように変わったかを自由に記入してください。

--

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 (はい ・ いいえ)

問17 大学や研究機関、民間企業、公的研究機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材となるために、所属するプログラムにおいてあなたが主体的に行った活動、及びその成果について自由に記入してください。

--

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 (はい ・ いいえ)

全般的なご意見をうかがいます

問18 あなたが参加するプログラムについて、あなたの将来に向けてこのプログラムがどう役立っているか、又はどのように改善してほしいかも含め、感想、ご意見を自由に記入してください。(下記①～③のうち1つでも構いません。)

①<プログラムが役立っている点・良い点>

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 (はい ・ いいえ)

②<改善して欲しい点>

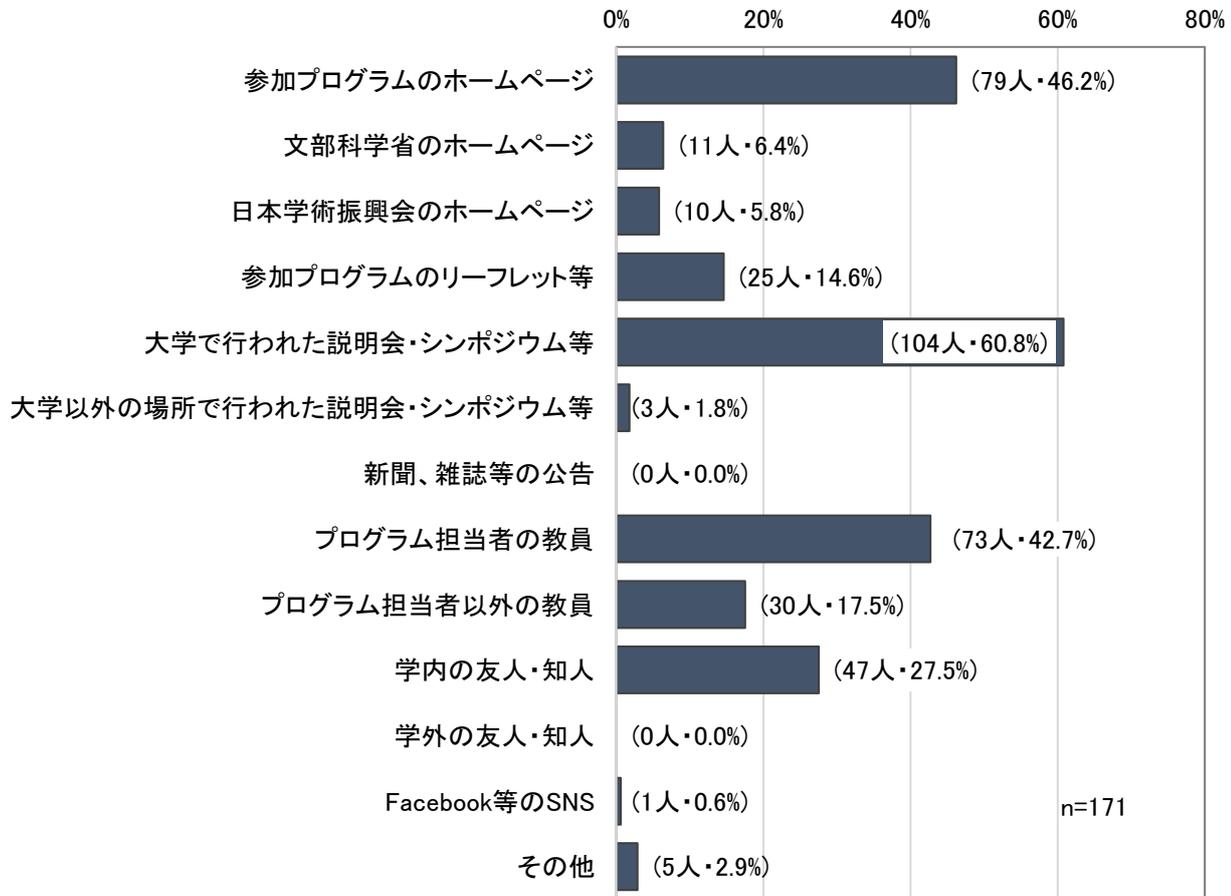
固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 (はい ・ いいえ)

③<その他>

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 (はい ・ いいえ)

(参考情報) よろしければご協力ください

問19 あなたはこのプログラムをどのようにして知りましたか (任意回答・あてはまるもの全てに○)



調査項目はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

卓越大学院プログラム
令和2年度採択プログラム中間評価
プログラム担当者アンケート調査

- この調査は卓越大学院プログラム（注）の令和2年度採択プログラムの中間評価の一環として実施するものです。採択されたプログラムを担当しておられる大学院教員の方、および学外から協力いただいている方にご意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省の施策の検討の参考とします。
- いただいた回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることはありません。調査結果については、プログラムの改善に資するため、記入した個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合などの処理を行った上で、当該大学に対し情報提供を行うとともに、集計結果を個人等が特定されない範囲で公表することもあります。

注 <卓越大学院プログラムとは>

「卓越大学院プログラム(WISE Program : Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education)」(以下「本事業」という。)は、新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材(高度な「知のプロフェッショナル」)を育成することを目的とする事業です。

本事業により、これまで行われてきた世界的課題を解決するグローバルリーダーの育成に加え、今後はさらに、世界の学術を牽引する卓越した研究者や、知を社会に実装することを主導する起業家、イノベーションをリードする企業人、国内外のパブリック・セクターにおいて政策立案をリードする人材など、俯瞰力及び独創力並びに高度な専門性を備え、大学や研究機関、民間企業、公的機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材、すなわち、高度な「知のプロフェッショナル」をあらゆるセクターに対し輩出することが期待されています。

担当されているプログラムと、御自身についてうかがいます

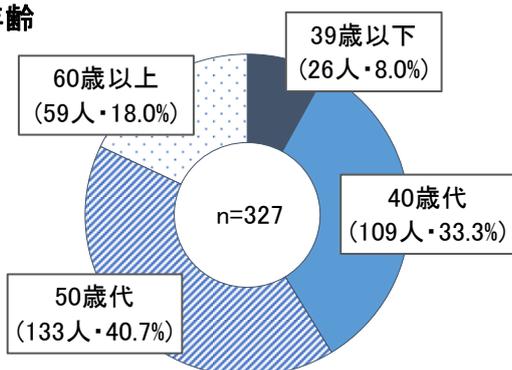
I. 回答者の属性

問1 担当している大学・プログラム名・公募の領域

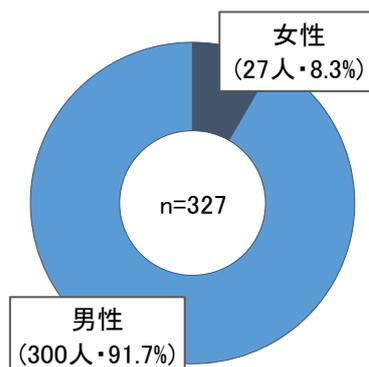
全体

問2 年齢、性別についてご記入ください。

年齢

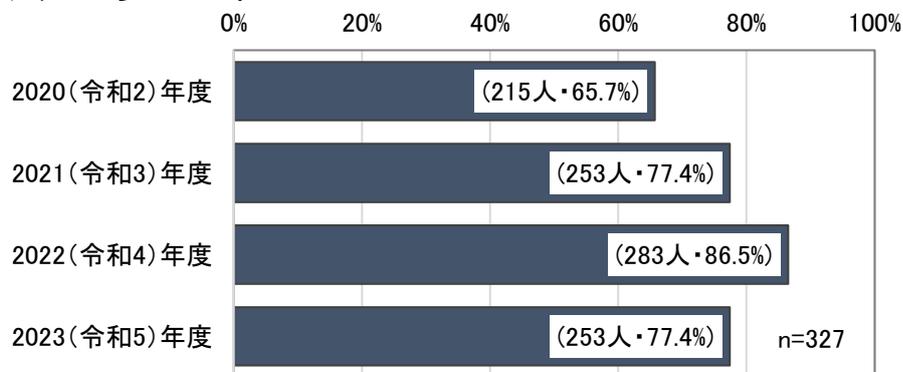


性別

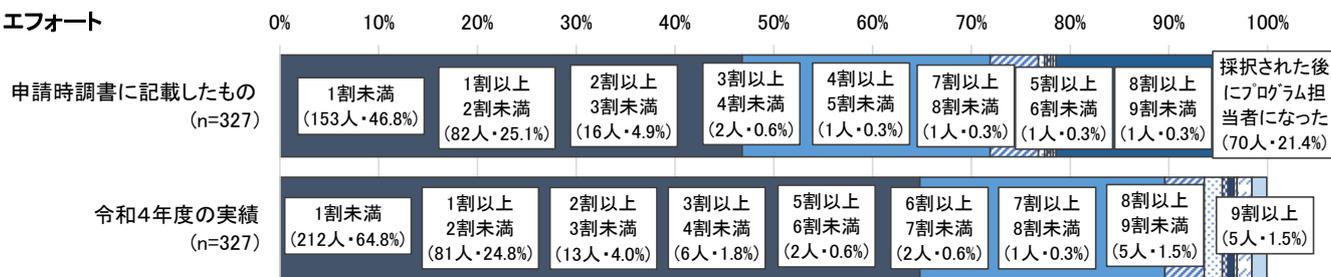


問3 プログラムとの関係 (それぞれ一つを選択)

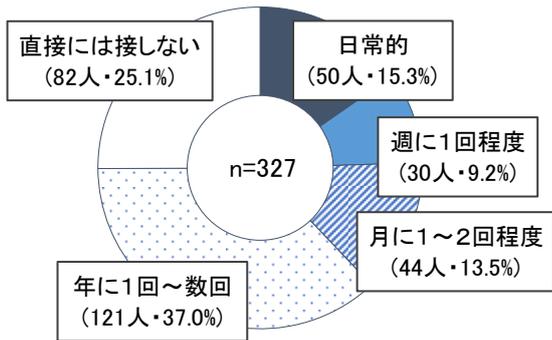
プログラムに参加した年



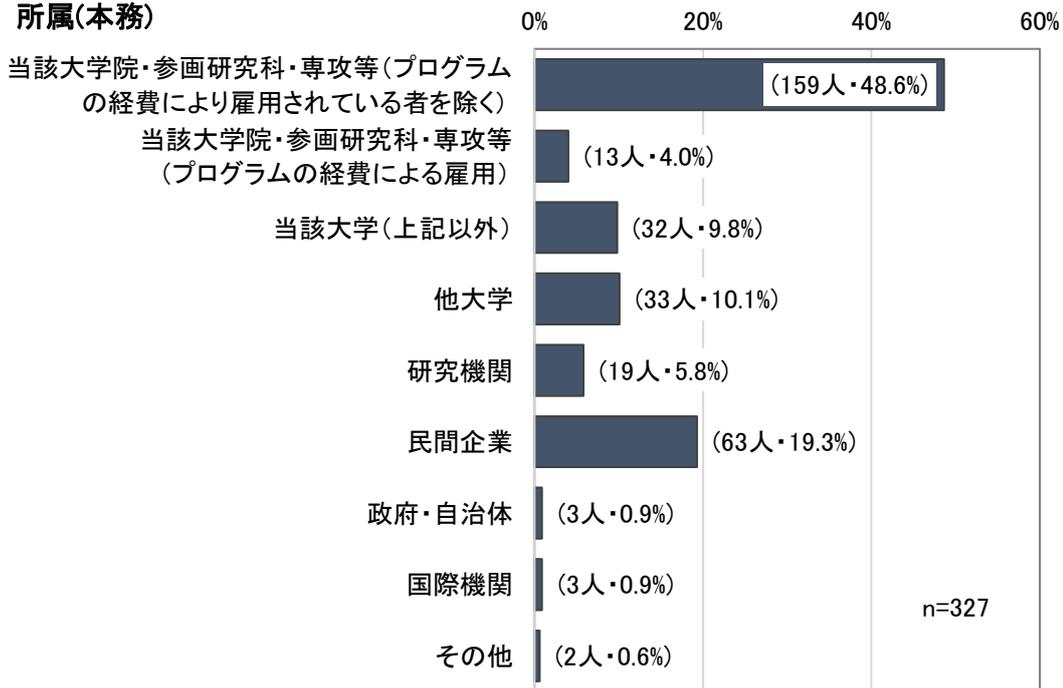
エフォート



本プログラムの学生に直接に接する頻度

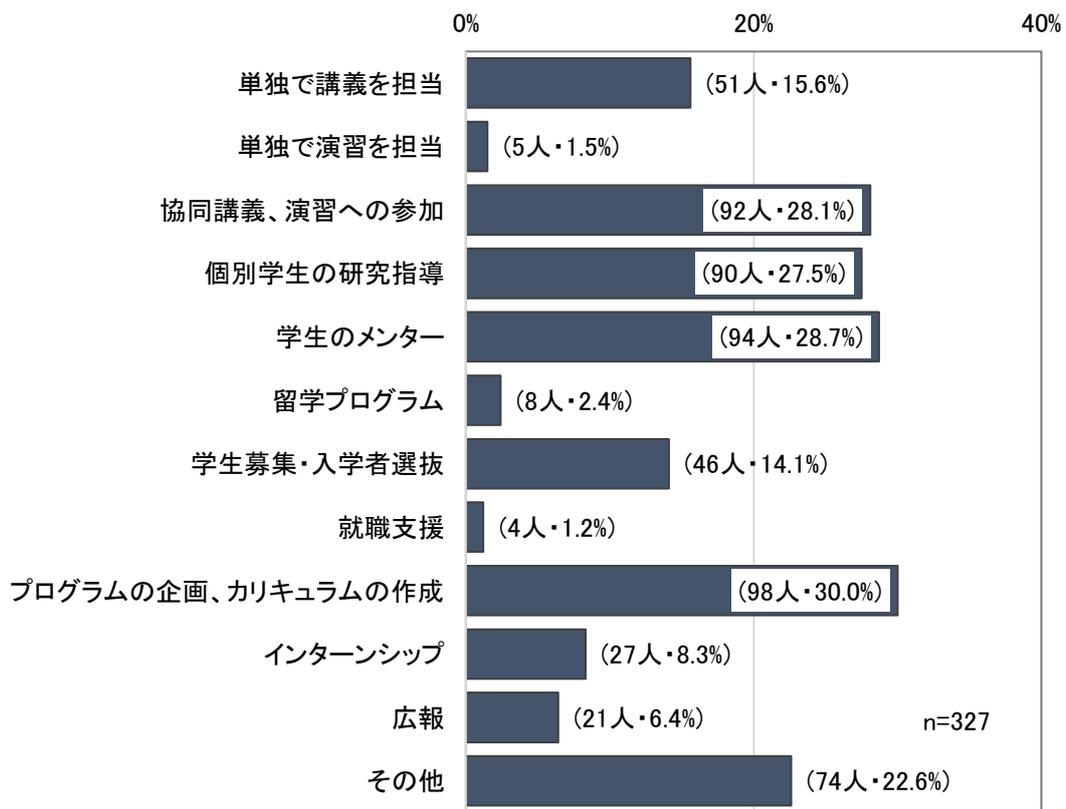


所属(本務)



Ⅱ. プログラムへの関与

問4 このプログラムではどのようなことを担当されていますか(あてはまる項目すべてをクリック)



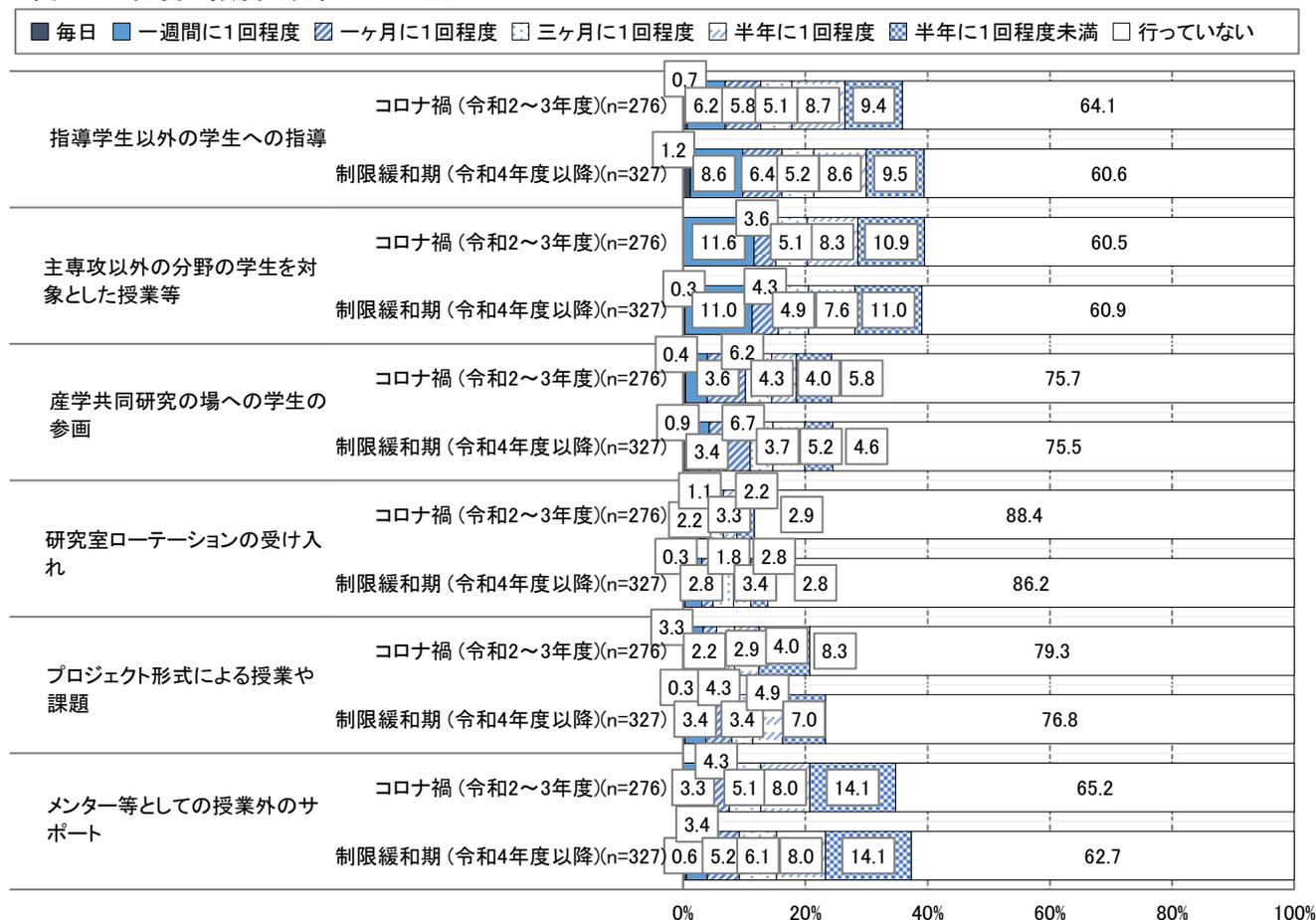
プログラムの実施状況について感想をうかがいます

Ⅲ. 指導等の内容

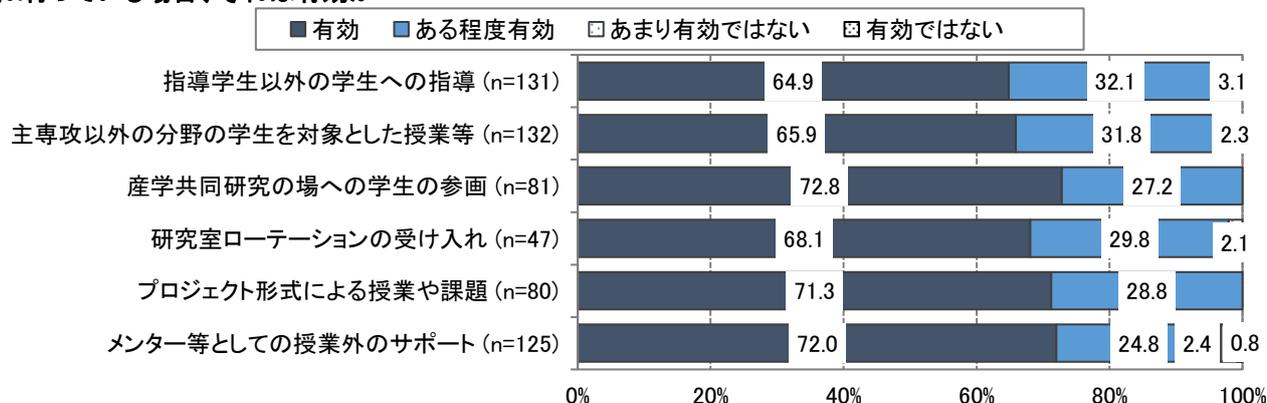
問5 このプログラムで、先生は下のような指導を行われていますか。また、行っている場合はそれは有効ですか。(それぞれ該当する回答をクリック。カリキュラムにない場合や今後行う場合は「行っていない」に該当。)コロナ禍(令和2~3年度)と制限緩和期のそれぞれについて回答してください。

※2022(令和4)以降にプログラムへ参加した先生は「コロナ禍(令和2~3年度)」に関する質問には回答不要です。

問5.どの程度の頻度で行われているか



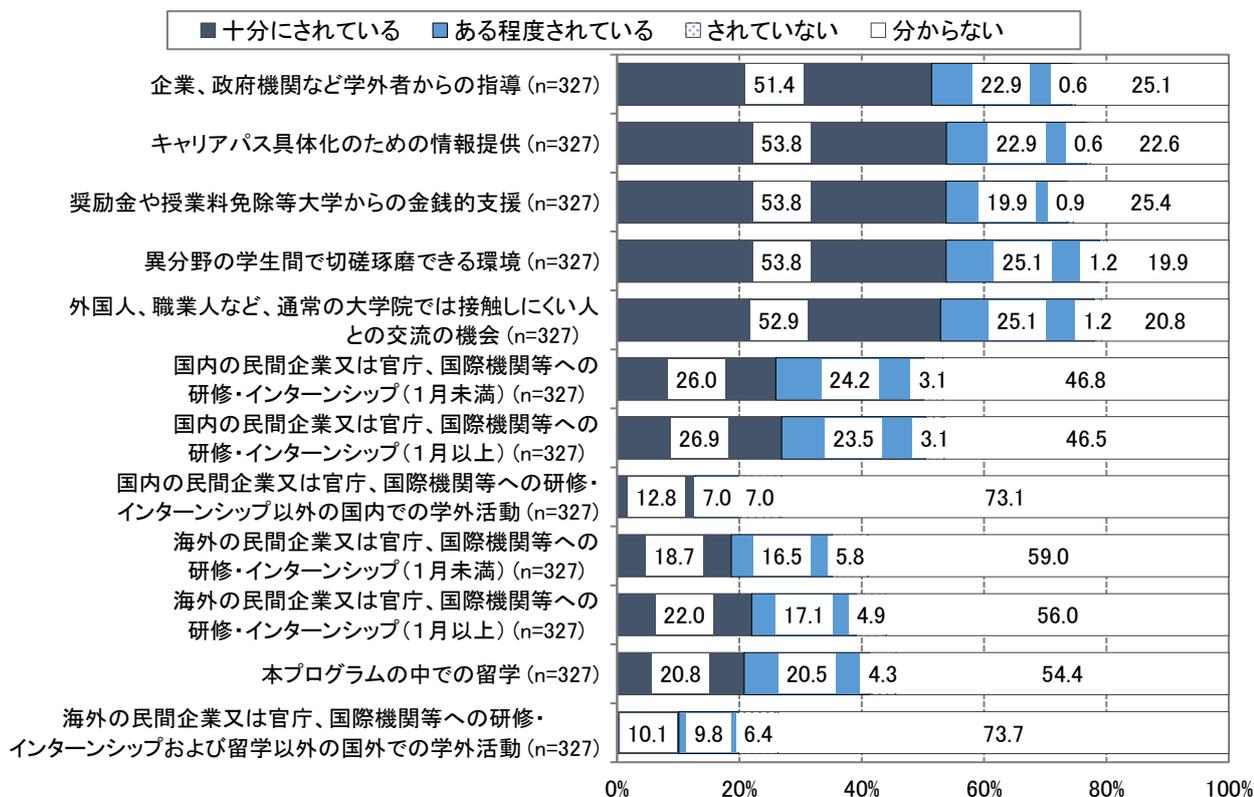
問5.行っている場合、それは有効か



※「研究室ローテーション」については、実施した期間について、「1. 1年のうち1週間程度」「2. 1年のうち2週間程度」「3. 1年のうち1ヶ月程度」「4. 1年のうち2ヶ月程度」「5. 1年のうち3ヶ月程度」「6. 1年のうち半年程度」「7. 行っていない」から選択

IV. 学生の学修環境の整備状況とその有効性

問6 このプログラムで、下のようなことは実施、あるいは整備されていますか。また「十分にされている」「ある程度されている」「されていない」を選択した場合、それは有効に機能していますか。(それぞれ該当する回答をクリック。プログラムのカリキュラムにない場合や今後行う場合は「されていない」に該当。)

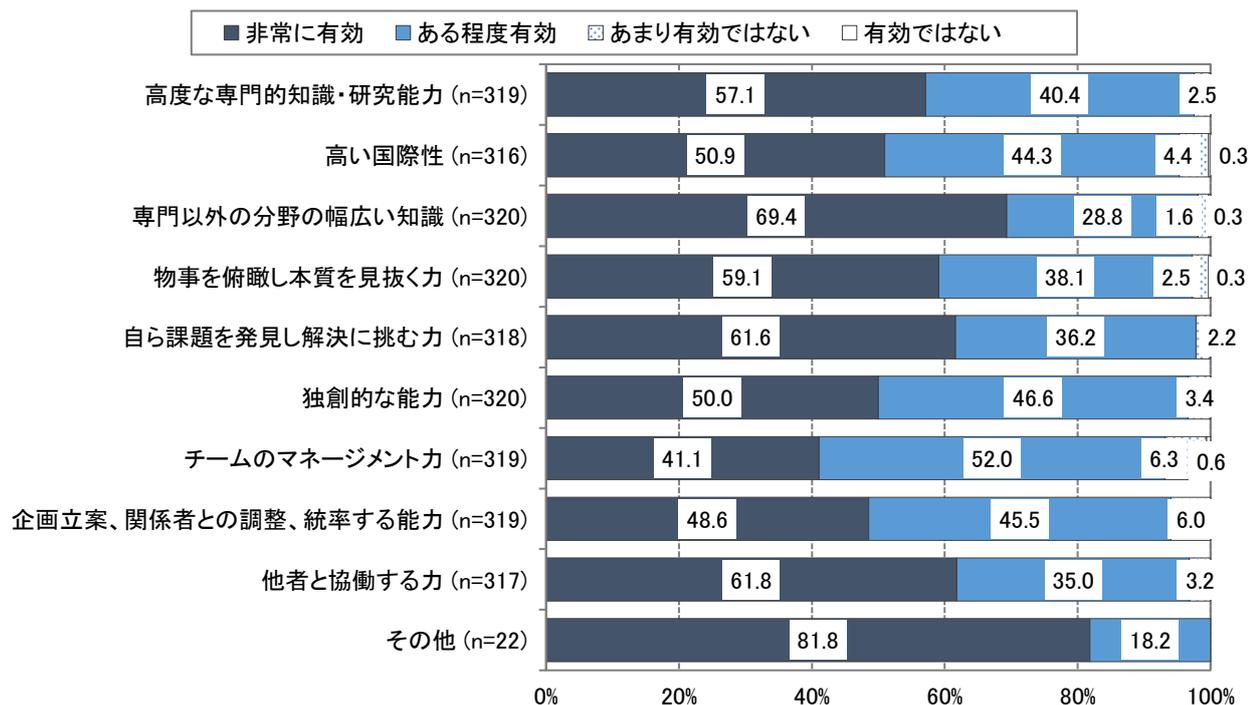


新型コロナウイルスの感染症の影響があれば記述してください。また、当初に予定されていた実施方法とは別の方法により代替して行われたことがあれば、その内容を記述してください。

--

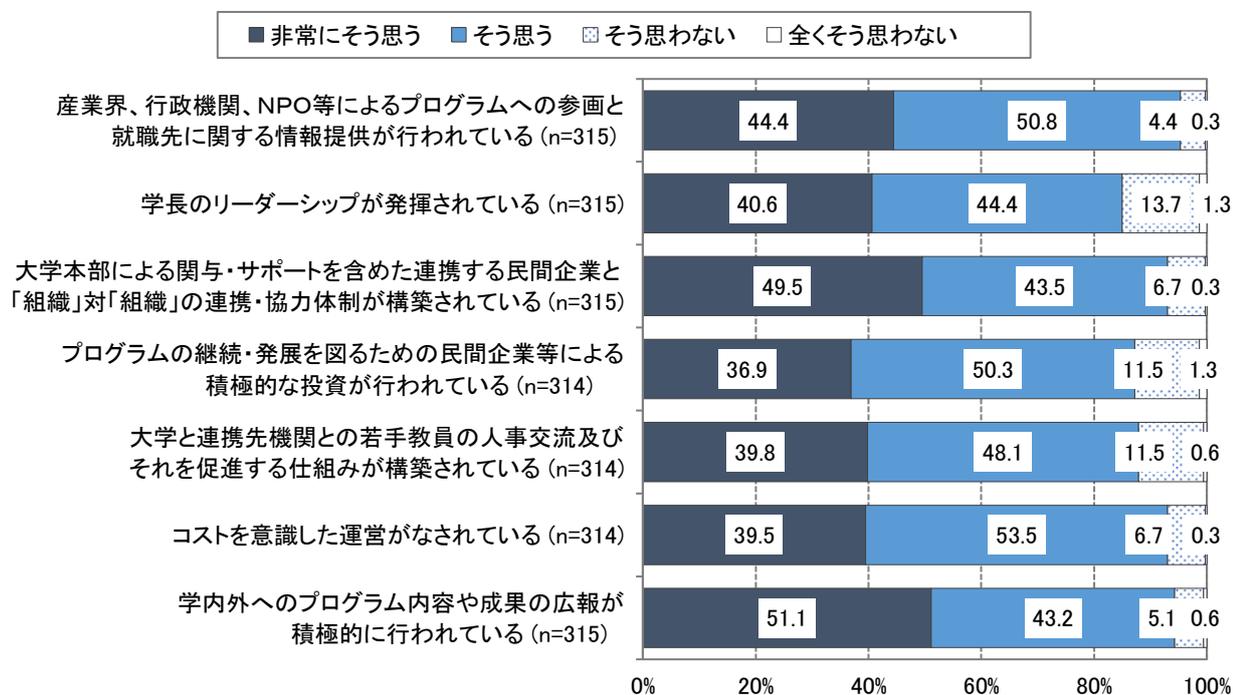
V. プログラムの有効性

問7 このプログラムは、学生に以下のような資質を身につけさせるのに、どの程度有効ですか。



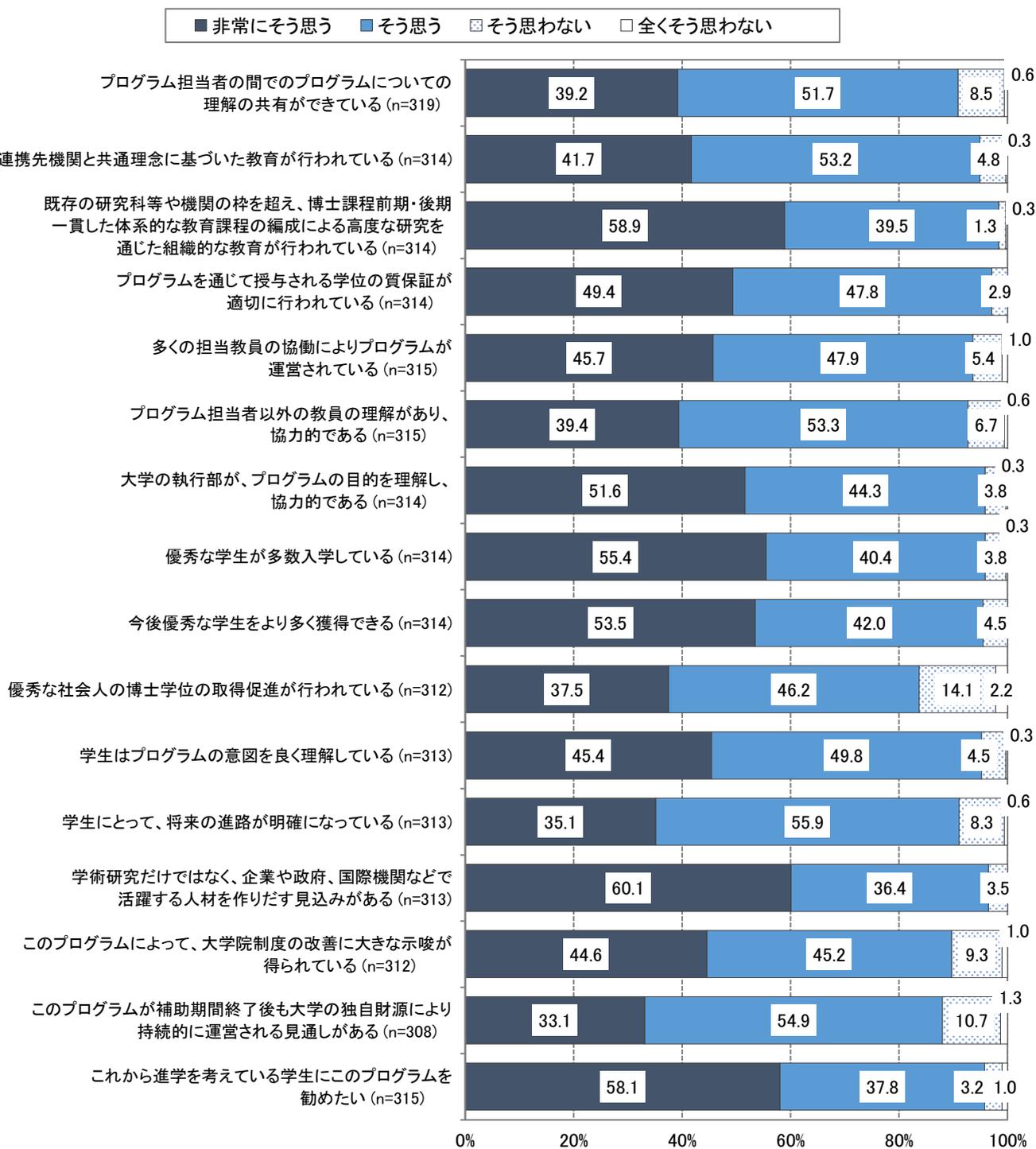
VI. プログラムの運営・管理

問8 運営・管理の面で、以下の点についてどう考えられていますか。



VII. プログラムに対する印象

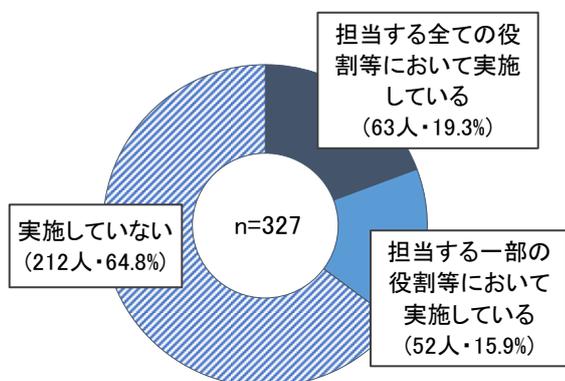
問9 以下の点について、どう考えられていますか。



プログラムの改善のための方策についてうかがいます

VIII. プログラムの改善

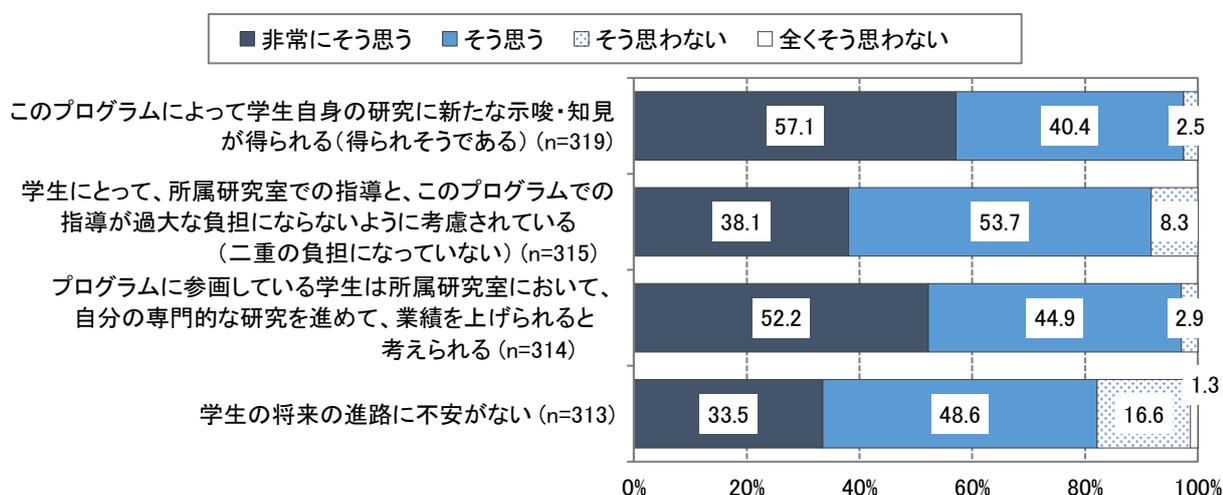
問10-1 このプログラムにおいてあなたが担当する指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケート(紙面やパソコン上のデータとして記録・保存をしているもの)を行っていますか。下記から一つ選択してください。



【1または2と回答した方のみお答えください】

問10-2 上記評価やアンケートの結果を踏まえ、具体的に改善を図った内容があれば、その内容についてお答えください。

問11 以下の点について、どう考えられていますか。



全般的なご意見をうかがいます

問12 この質問票でお尋ねした点、あるいは、それ以外にも、このプログラムについてお考えがあれば、ご意見を自由にお書きください

--

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 （ はい ・ いいえ ）

調査項目はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。